第２回 島原市市勢振興計画審議会

平成３０年１１月１９日（月）
９：３０～１２：００
森岳公民館　大ホール

次　第

１．市民アンケートの集計結果報告について
（質疑、意見交換含む）
２．現計画後期基本計画の施策評価について
（質疑、意見交換含む）
３．職員ワークショップ及びまちづくり座談会について
（質疑、意見交換含む）
４．全般的な意見交換

配布資料
・委員名簿
・島原市市勢振興計画審議会条例
・市勢振興計画の策定に向けた市民アンケート調査 集計結果報告書
・第６次島原市市勢振興計画後期基本計画 施策評価報告書
・第７次島原市市勢振興計画策定に向けた
職員ワークショップ、まちづくり座談会 実施要項

第7次島原市市勢振興計画審議会委員　24名（五十音順）

H30.8.20現在

	所属等	氏名
1	島原市町内会・自治会連合会　会長	阿部　洋次郎
2	（福）島原市社会福祉協議会　会長	伊東　作藏
3	有明町商工会　会長	片山　輝雄
4	長崎県島原振興局管理部　地域づくり推進課長	川上　年仁
5	島原市婦人会連絡協議会　会長	川本　まなみ
6	島原市商店街連盟　会長	隈部　政博
7	公募委員	坂本　直子
8	（一社）島原市医師会　事務局長	嶋井　量章
9	島原鉄道（株）　取締役総務部長	陶山　幸造
10	島原市老人クラブ連合会　会長	田中　正之
11	長崎県男女共同参画推進員	珠林　成子
12	（株）島原観光ビューロー　代表取締役	中村　慎次
13	（一社）島原青年会議所　監事	永代　秀顕
14	国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所　総務課長	平河　和博
15	島原市消防団　団長	本田　庄一郎
16	島原雲仙農業協同組合　代表理事専務	本田　嘉文
17	公募委員	前田　尚美
18	公募委員	松本　段
19	島原商工会議所　会頭	満井　敏隆（副会長）
20	島原市教育委員会　委員	森　みずき
21	長崎大学経済学部　准教授	山口　純哉（会長）
22	公募委員	山本　直子
23	島原市子ども・子育て会議　副会長	吉岡　今日子
24	島原漁業協同組合　代表理事組合長	吉本　政信

○島原市市勢振興計画審議会条例

平成30年３月30日条例第１号

島原市市勢振興計画審議会条例

（設置）

第１条　本市における市勢の振興を図るための計画（以下「市勢振興計画」という。）策定に関し、必要な事項を調査審議するため、島原市市勢振興計画審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　審議会は、市長の諮問に応じ、本市の市勢振興計画の策定に関し、必要な調査及び審議を行う。

（組織）

第３条　審議会は、委員25人以内で組織する。

２　委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

（１）　市内の関係団体等の代表者又は役員

（２）　学識経験を有する者

（３）　関係行政機関の職員

（４）　前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

（任期）

第４条　委員は、当該諮問に係る審議が終了したときは、解任されるものとする。ただし、任期中であっても、その本来の職を離れたときは、委員の職を失うものとする。

２　市長は、委員に欠員が生じたときは、前条に規定する者のうちから委員を選任することができる。

（会長及び副会長）

第５条　審議会に会長及び副会長各１人を置き、委員の互選により定める。

２　会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　審議会は、会長が招集する。

２　審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（部会）

第７条　会長は、審議会に専門的事項を分掌させるための部会を置くことができる。

２　部会は、会長の指名する委員をもって組織し、部会長は委員の互選による。

３　部会の運営に関し必要な事項は、部会長が会長の同意を得て定める。

（関係者の意見聴取）

第８条　会長及び部会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

（庶務）

第９条　審議会の庶務は、市長公室において処理する。

（委任）

第10条　この条例に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、市長が定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、公布の日から施行する。

（経過措置）

２　この条例の施行後最初に招集する審議会の会議は、第６条第１項の規定にかかわらず、市長が招集する。

市勢振興計画の策定に向けた
市民アンケート調査

集計結果報告書

平成３０年１１月

目　　次

Ⅰ　調査概要 …… 1

１　調査の目的と実施概要 …… 1

（１）調査の目的 …… 1

（２）実施概要 …… 1

２　集計結果を読む際の留意事項 …… 2

３　集計・分析結果概要 …… 3

（１）属性による幸せ実感度の分布状況 …… 3

（２）暮らしやさによる幸せ実感度の分布状況 …… 4

（３）重視する取り組みについて …… 6

Ⅱ　調査結果 …… 7

１　あなたご自身のことについて …… 7

（１）性別 …… 7

（２）年齢 …… 7

（３）職業 …… 8

（４）居住地域 …… 9

（５）家族構成 …… 9

（６）婚姻・配偶者の有無 …… 10

（７）出身と居住年数 …… 10

（８）同居家族について …… 12

２　市民の幸せ実感度・島原市での暮らしについて …… 13

（１）市民の幸せ実感度 …… 13

（２）市民の幸せ実感度の判断に重視した点 …… 15

（３）自身にとって特に大事だと思う分野 …… 17

（４）将来の暮らしへの悩みや不安 …… 19

（５）島原市の暮らしやすさ …… 21

（６）定住意向と住み続けたい・転居したい理由 …… 22

（７）普段の暮らしで感じることや取り組んでいること …… 25

（８）市内での心配事 …… 30

３　島原市の取り組みについて ····· 31
（１）今後の都市基盤、交通・生活環境整備で重要なこと ····· 31
（２）今後の環境保全を進めるうえで重要なこと ····· 32
（３）今後の災害に関する取り組みを進めるうえで重要なこと ····· 33
（４）今後の農林水産業の振興を図るために重要なこと ····· 34
（５）今後の観光振興を図るために重要なこと ····· 35
（６）今後の商工業振興を図るために重要なこと ····· 36
（７）今後の健康づくりや保健活動を進めるうえで重要なこと ····· 37
（８）今後の高齢者、要介護者、障がいのある人への支援で 重要なこと ···· 38
（９）今後の医療に関しての取り組みで重要なこと ····· 39
(10) 今後の子育て支援に関しての取り組みで重要なこと ····· 40
(11) 今後の学校教育に関しての取り組みで重要なこと ····· 41
(12) 今後の生涯学習・スポーツ、文化活動に関しての取り組みで重要なこと · 42
(13) 市の行政サービスについて感じていること ····· 43
(14) 市の行財政運営の情報提供や公開について ····· 44
(15) 今後、行財政改革を進めるうえで重要なこと ····· 45
(16) 市民の行政への参画機会について ····· 46
(17) 協働によるまちづくりを進めるうえで、重視する取り組み ····· 47
４　人口減少の抑制への取り組みについて ····· 48
（１）人口減少社会における取り組みとして重要なこと ····· 48
５　島原市のこれらからのまちづくりについて ····· 50
（１）まちづくりに必要なキーワード ····· 50
（２）新しい計画のスローガン(標語・キャッチフレーズ) ····· 52
（３）まちづくりへの意見・提案 ····· 54

Ⅰ　調査概要

１　調査の目的と実施概要

（１）調査の目的

市勢振興計画策定に向けた市民アンケート調査（以下、「本調査」とします。）は、新たな市勢振興計画策定にあたり、市民の皆様の意見、要望等を収集し、市の将来像やまちづくりの方向性などを検討する際の基礎資料として活用させていただくことを目的として実施しました。

（２）実施概要

本調査の対象及び配布、回収状況は、以下のとおりとなっています。

《 調　査　概　要 》

○ 調 査 対 象：市内にお住まいの満 16 歳以上の方

○ 抽 出 方 法：3,000 名を住民基本台帳から等間隔無作為抽出

○ 調 査 内 容：市民意識・市政全般に関すること

1. あなた自身のこと
2. 市民の幸せ実感度・島原市での暮らしについて
3. 島原市の取り組みについて
4. 人口減少の抑制への取り組みについて
5. 島原市のこれらからのまちづくりについて

○ 調 査 期 間：平成 30 年（2018 年）9 月

○ 調 査 方 法：郵送配付・回収

○ 配付・回収：

配布数	回収数	回収率
3,000 票	1,167 票	38.9%

２　集計結果を読む際の留意事項

この調査の集計結果を読む際の留意事項は以下のとおりです。

《 留 意 事 項 》

○ 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で示しています。

○ 調査結果の図表に示す「n」は「Number of case」の略で、構成比算出の母数、つまり、当該設問の回答者数（限定設問においては該当者数）を示しています。

○ 設問には、当該設問に回答した人のみが答える「限定設問」があり、この場合の「n」（該当者数）は回答者数全数より少ない場合があります。

○ 図表の構成比（百分率）は、回答者数（限定設問においては該当者数）を 100%として算出しており、本文及び図表の構成比（百分率）は小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記しています。
（※四捨五入のため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても各比率の合計が 100.0%とならない場合があります。）

○ 複数回答の設問では、各比率の合計が 100.0%を超える場合があります。

○ 図表中の「0.0」、「－」は、四捨五入の結果、または回答者が皆無であることを示しています。

○ 属性別分析結果において、構成比算出の母数（属性毎の回答者数）が少数になる場合、各比率は統計的な誤差の大きい可能性があるため、比率の取り扱いに注意する必要があります。

○ 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中で省略した表現を用いている場合があります。

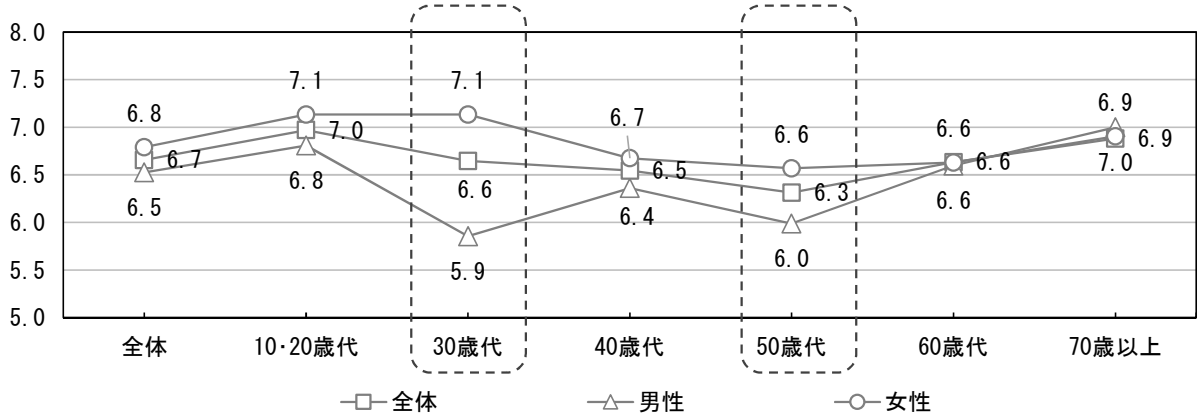
３　集計・分析結果概要

（１）属性による幸せ実感度の分布状況

①　性別・年齢

○ 性別・年齢による幸せ実感度を比較すると、概ね男性よりも女性の方が幸せ実感度が高くなっています。年齢別では、特に 30 歳代、50 歳代で性別による幸せ実感度に差がみられます。

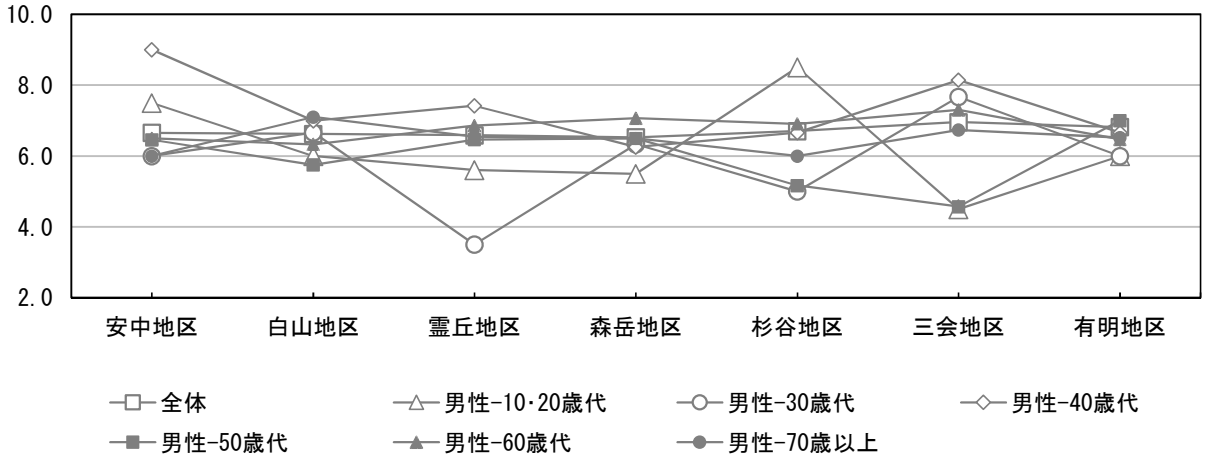
図表　性別・年齢による幸せ実感度（性別・年齢別：平均値）



②　居住地域による幸せ実感度

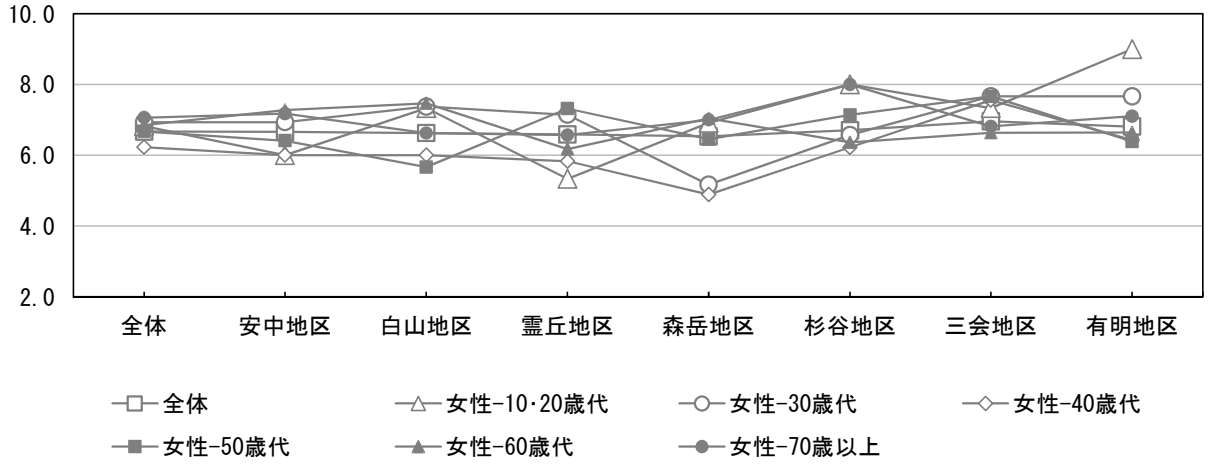
○ 性別・年齢による幸せ実感度を居住地域別に比較すると、男性では、霊丘地区の 30 歳代、三会地区の 10・20 歳代・50 歳代の幸せ実感度が相対的に低く、安中地区の 40 歳代、杉谷地区の 10・20 歳代の幸せ実感度が相対的に高くなっています。

図表　居住地域による幸せ実感度（男性：地域別）



○ 女性では、霊丘地区の 10・20 歳代、森岳地区 30 歳代、40 歳代の幸せ実感度が相対的に低く、有明地区の 10・20 歳代の幸せ実感度が相対的に高くなっています。

図表　居住地域による幸せ実感度（女性：地域別）



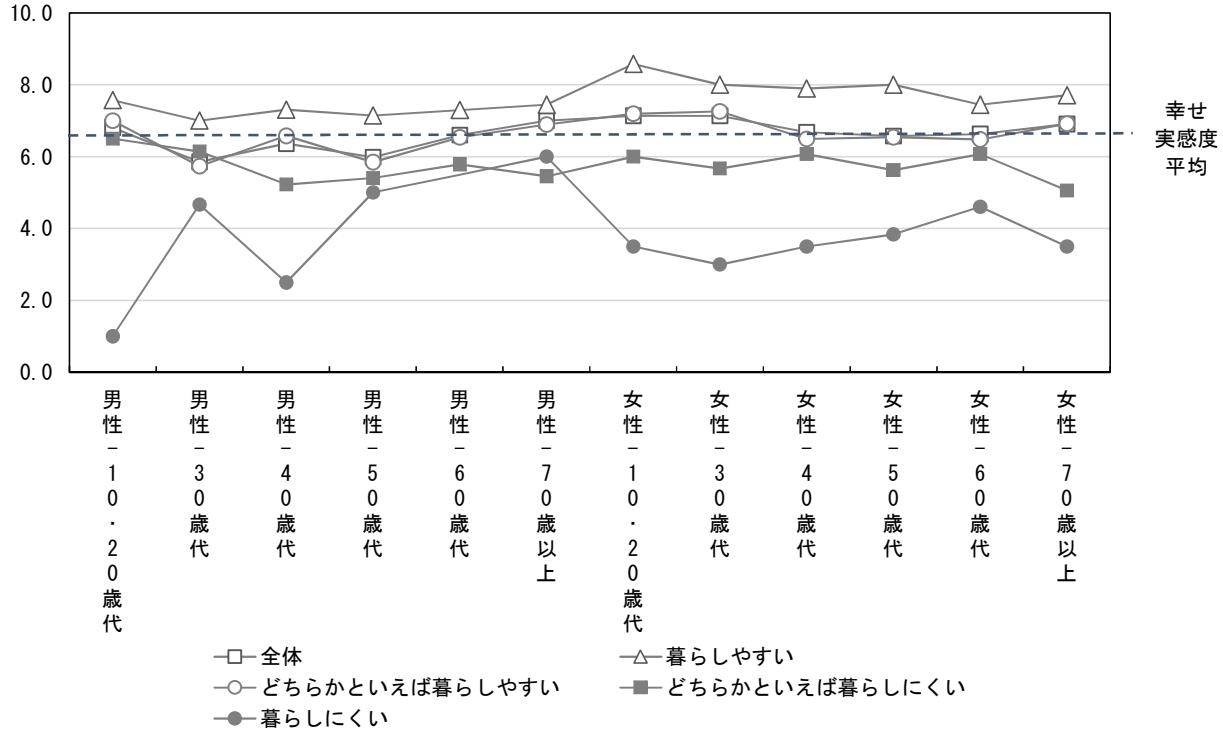
（２）暮らしやさによる幸せ実感度の分布状況

①　性別・年齢による幸せ実感度と暮らしやすさの関係

○ 暮らしやすさごとの幸せ実感度を性別・年齢別に比較すると、暮らしやすいと回答した方の幸せ実感度が相対的に高くなっており、暮らしやすさと関わりのあることが考えられます。

○ 暮らしにくいと回答した方の幸せ実感度では、男性では 10・20 歳代、40 歳代、女性では各年齢層で低くなっており、暮らしやすさを高める取り組みが求められます。

図表　暮らしやさによる幸せ実感度（性別・年齢別）



② 性別・年齢による幸せ実感度を判断する際に重視した点

○ 性別・年齢による幸せ実感度を判断する際に重視した点は次のとおりです。

○ 男性では「家計の状況（所得や消費）」、女性では「家族関係」、「健康状態」を上位に挙げています。

図表 性別・年齢による幸せ実感度を判断する際に重視した点（性別-年齢別：上位 3 位）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
男性-10･20 歳代 (n=27)	健康状態・家族関係（ともに）40.7%		友人関係 37.0%
男性-30 歳代 (n=35)	家計の状況（所得や消費） 74.3%	家族関係 51.4%	就業状況（仕事の有無・安定） 40.0%
男性-40 歳代 (n=53)	家計の状況（所得や消費） 69.8%	家族関係 60.4%	就業状況（仕事の有無・安定） 41.5%
男性-50 歳代 (n=76)	家計の状況（所得や消費） 63.2%	健康状態 56.6%	家族関係 42.1%
男性-60 歳代 (n=94)	家計の状況（所得や消費） 58.5%	健康状態 56.4%	家族関係 50.0%
男性-70 歳以上 (n=142)	健康状態 53.5%	家族関係 43.7%	家計の状況（所得や消費） 35.9%
女性-10･20 歳代 (n=39)	自由な時間 53.8%	家族関係 48.7%	友人関係 46.2%
女性-30 歳代 (n=62)	家族関係 69.4%	家計の状況（所得や消費） 53.2%	健康状態 46.8%
女性-40 歳代 (n=81)	家族関係 64.2%	健康状態 59.3%	家計の状況（所得や消費） 55.6%
女性-50 歳代 (n=114)	家計の状況（所得や消費） 57.9%	家族関係 52.6%	健康状態 43.9%
女性-60 歳代 (n=151)	健康状態 61.6%	家計の状況（所得や消費） 53.0%	家族関係 51.7%
女性-70 歳以上 (n=185)	健康状態 59.5%	家計の状況（所得や消費） 47.6%	家族関係 41.6%

（３）重視する取り組みについて

○ 島原市の取り組みとして、各分野で今後重視する取り組み（上位３項目）を次のとおり整理します。

図表　各分野で重視する取り組みについて（回答全体：上位３位）

	第１位	第２位	第３位
都市基盤、交通・生活環境整備	幹線道路や生活道路の整備 57.6%	鉄道、バスなどの公共交通網の充実 54.8%	商業施設、事業所、行政機関、文化施設などの集積 52.9%
環境保全	大気・水・土壌などの環境監視、公害の防止 50.8%	ごみ発生抑制・再資源化の促進 39.7%	公園の整備や道路および公共施設等の緑化 34.3%
災害	高齢者や障がいのある人たちへの避難支援体制づくり 53.5%	水害や土砂災害を防ぐための治山治水対策 48.8%	災害危険箇所や避難ルート・場所等に関する情報提供 43.2%
農林水産振興	後継者・新規就業者の育成やヘルパーなど労働力の確保 63.1%	新しい加工技術や商品の販路、流通ルートの開拓 53.2%	農林水産物ブランド化や付加価値の高い産物への取り組み 43.4%
観光振興	特産品や食の魅力の強化 57.2%	既存の観光施設、新たな観光資源の発掘・有効活用 50.8%	観光客へのPRの強化（効果的な観光情報の提供） 45.7%
商工振興	空き地、空き店舗の活用 54.1%	優良企業の誘致 48.7%	農業や観光と連携した商業の振興 45.5%
健康づくり、保健活動	予防健診（検診）体制の充実 57.8%	気軽に利用できる体力づくりのための施設の充実 56.9%	保健、医療、福祉の各機関が連携したサービスの提供 46.9%
高齢者、要介護者、障がいのある人への支援	在宅福祉サービスの向上 59.1%	特別養護老人ホームやグループホームなど、施設の充実 48.1%	自立生活に向けた生活支援サービスの充実 47.6%
医療	休日･夜間などいつでも医療が受けられる体制の充実 74.0%	高齢者などへの在宅医療の充実 59.2%	医療機関への移動手段（交通手段）の確保 38.6%
子育て支援	子育てにかかる費用に対する負担軽減や公的補助の充実 49.9%	保育時間の延長、一時保育などの充実 43.8%	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブの充実 35.9%
学校教育	学校でのいじめ、不登校や心の問題などへの対応強化 60.7%	豊かな人間性、広い社会性を育む活動の充実 59.0%	学校、地域、家庭の連携強化 38.9%
生涯学習・スポーツ、文化活動	多くの市民が参加できるイベントの企画・開催 34.5%	各種講座や催し物、施設などに関する情報提供の充実 32.3%	音楽・芸術などの鑑賞機会の充実 32.2%
行財政改革	事務手続きの簡略化・スピード化 54.2%	市有地や公共施設などの市有財産の有効活用 38.9%	市の事業や業務の整理・合理化 37.5%

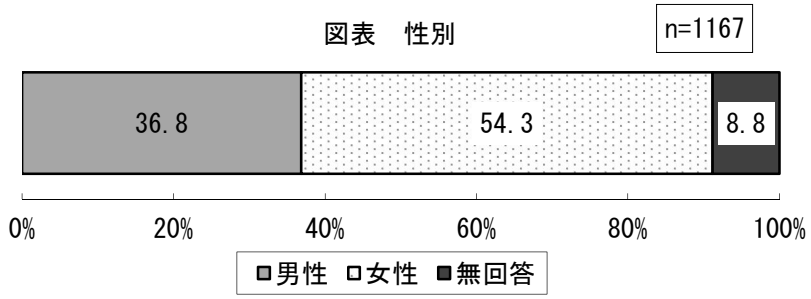
Ⅱ　調査結果

１　あなたご自身のことについて

（１）性別

○ 回答者の性別は、「男性」が 36.8%、「女性」が 54.3%となっています。

図表　性別



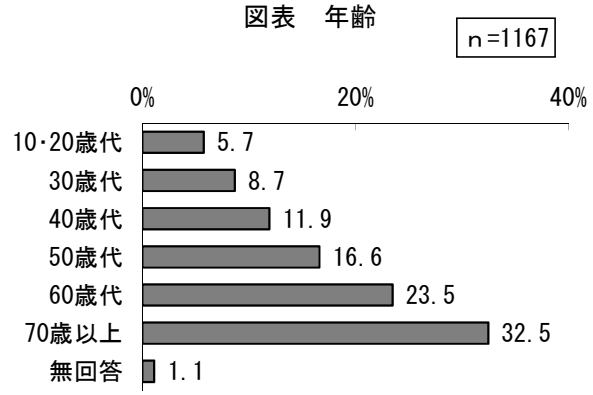
（n=1167）

		回答数	構成比
1	男性	430	36.8
2	女性	634	54.3
	無回答	103	8.8

（２）年齢

○ 回答者の年齢は、「70 歳以上」が 32.5%と最も多くなっています。次いで「60 歳代」が 23.5%、「50 歳代」が 16.6%となっています。

図表　年齢



図表　年齢

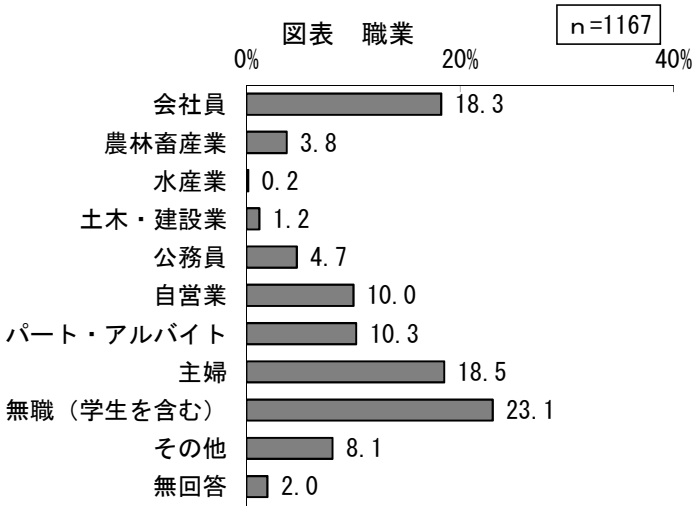
（n=1167）

		回答数	構成比
1	10･20 歳代	67	5.7%
2	30 歳代	101	8.7%
3	40 歳代	139	11.9%
4	50 歳代	194	16.6%
5	60 歳代	274	23.5%
6	70 歳以上	379	32.5%
	無回答	13	1.1%

（３）職業

○ 職業は、「無職（学生含む)」が 23.1%と最も多くなっています。次いで「主婦」が 18.5%、「会社員」が 18.3%となっています。

図表　職業



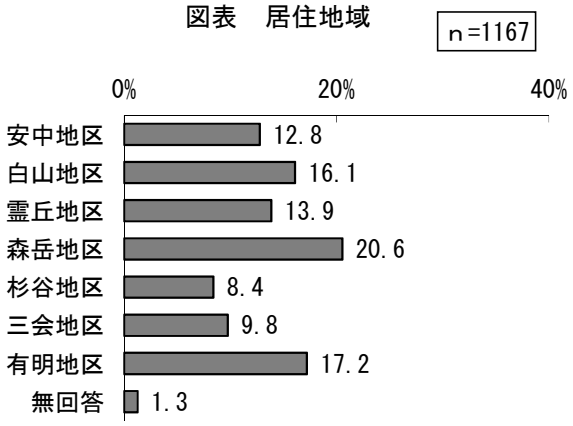
（n=1167）

		回答数	構成比
1	会社員	213	18.3%
2	農林畜産業	44	3.8%
3	水産業	2	0.2%
4	土木・建設業	14	1.2%
5	公務員	55	4.7%
6	自営業	117	10.0%
7	パート・アルバイト	120	10.3%
8	主婦	216	18.5%
9	無職（学生を含む）	269	23.1%
10	その他	94	8.1%
	無回答	23	2.0%

（４）居住地域

○ 居住地域は、「森岳地区」が 20.6%と最も多くなっています。次いで「有明地区」が 17.2%、「白山地区」が 16.1%となっています。

図表　居住地域



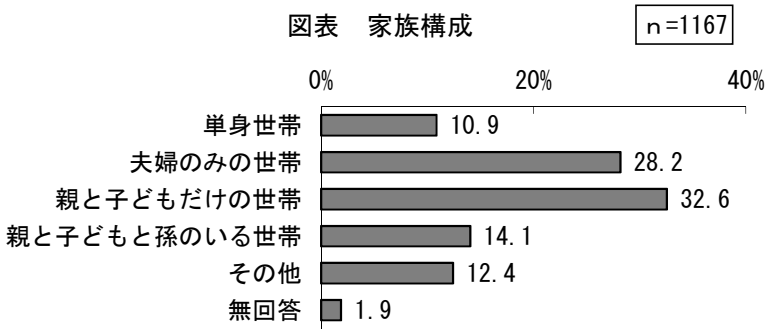
(n=1167)

		回答数	構成比
1	安中地区	149	12.8%
2	白山地区	188	16.1%
3	霊丘地区	162	13.9%
4	森岳地区	240	20.6%
5	杉谷地区	98	8.4%
6	三会地区	114	9.8%
7	有明地区	201	17.2%
	無回答	15	1.3%

（５）家族構成

○ 家族構成は、「親と子どもだけの世帯」が 32.6%と最も多くなっています。次いで「夫婦のみの世帯」が 28.2%、「親と子どもと孫のいる世帯」が 14.1%となっています。

図表　家族構成



図表　家族構成

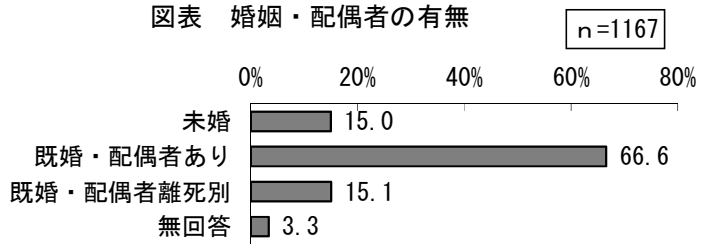
（n=1167）

		回答数	構成比
1	単身世帯	127	10.9%
2	夫婦のみの世帯	329	28.2%
3	親と子どもだけの世帯	380	32.6%
4	親と子どもと孫のいる世帯	164	14.1%
5	その他	145	12.4%
	無回答	22	1.9%

（６）婚姻・配偶者の有無

○ 婚姻・配偶者の有無は、「既婚・配偶者あり」が 66.6%、「未婚」は 15.0%、「既婚・配偶者離死別」は 15.1%となっています。

図表　婚姻・配偶者の有無



（n=1167）

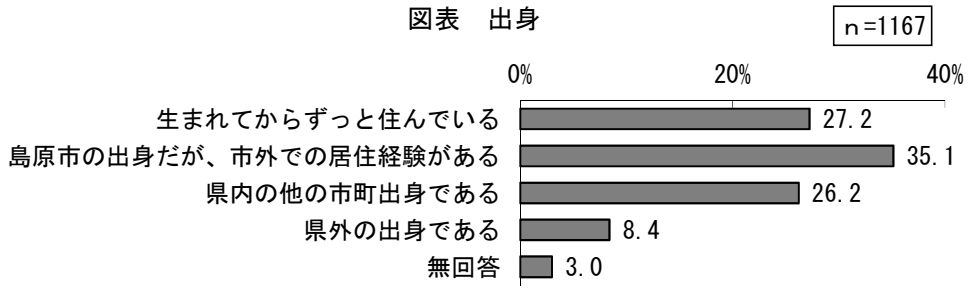
		回答数	構成比
1	未婚	175	15.0%
2	既婚・配偶者あり	777	66.6%
3	既婚・配偶者離死別（結婚後、配偶者と死に別れ、または離婚して独身）	176	15.1%
	無回答	39	3.3%

（７）出身と居住年数

○ 「島原市の出身だが、市外での居住経験がある」(35.1%)、「生まれてからずっと住んでいる」(27.2%) を合わせた 6 割 (62.3%) の回答者は“島原市出身者”となっています。

○ 出身は、「島原市出身者」が 62.3%と最も多くなっています。次いで「県内他市町出身者」が 26.2%、「県外出身者」が 8.4%となっています。

図表　出身



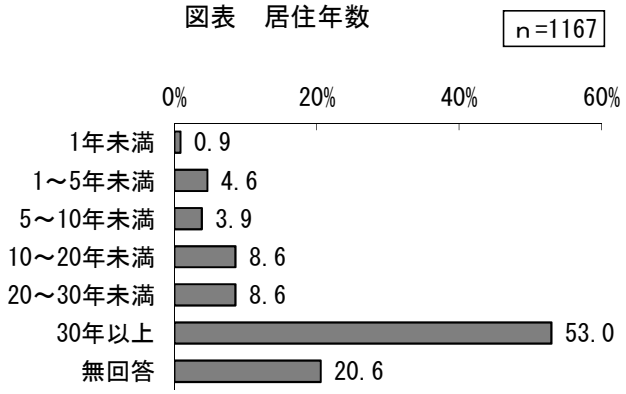
図表　出身

（n=1167）

		回答数	構成比
1	生まれてからずっと住んでいる	318	27.2%
2	島原市の出身だが、市外での居住経験がある	410	35.1%
3	県内の他の市町出身である	306	26.2%
4	県外の出身である	98	8.4%
	無回答	35	3.0%

○ 居住年数は、平均で 39.3 年となっており、「30 年以上」が 53.0%と最も多くなっています。

図表　居住年数



		回答数	構成比
1	1 年未満	10	0.9%
2	1～5 年未満	54	4.6%
3	5～10 年未満	45	3.9%
4	10～20 年未満	100	8.6%
5	20～30 年未満	100	8.6%
6	30 年以上	618	53.0%
	無回答	240	20.6%

		値
	平均値（年）	39.3

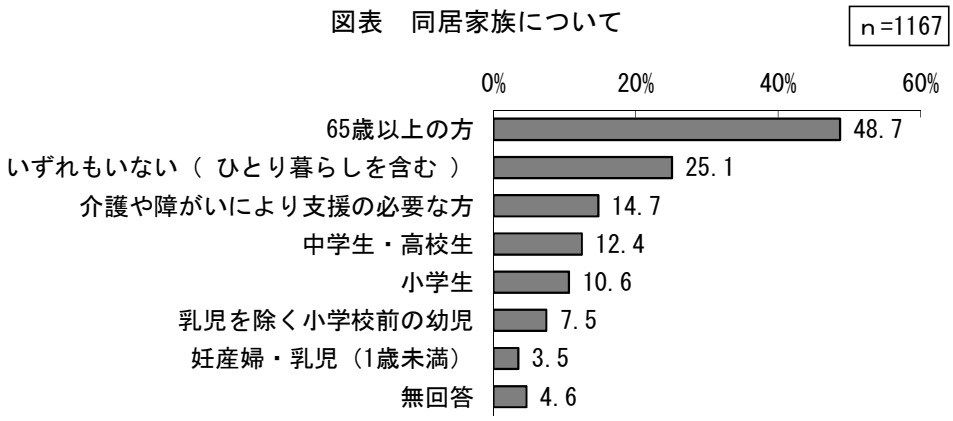
（８）同居家族について

問　あなた自身、またはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか。
【 あてはまるものすべてに○ 】

○ 同居家族は、「65 歳以上の方」が 48.7%と最も多く、次いで「介護や障がいにより支援の必要な方」が 14.7%、「中学生・高校生」が 12.4%となっています。

○ 「いずれもいない(ひとり暮らしを含む)」は、25.7%となっています。

図表　同居家族について



（n=1167）

		回答数	構成比
1	妊産婦・乳児（1 歳未満）	41	3.5%
2	乳児を除く小学校前の幼児	87	7.5%
3	小学生	124	10.6%
4	中学生・高校生	145	12.4%
5	65 歳以上の方	568	48.7%
6	介護や障がいにより支援の必要な方	172	14.7%
7	いずれもいない（ ひとり暮らしを含む ）	293	25.1%
	無回答	54	4.6%

２　市民の幸せ実感度・島原市での暮らしについて

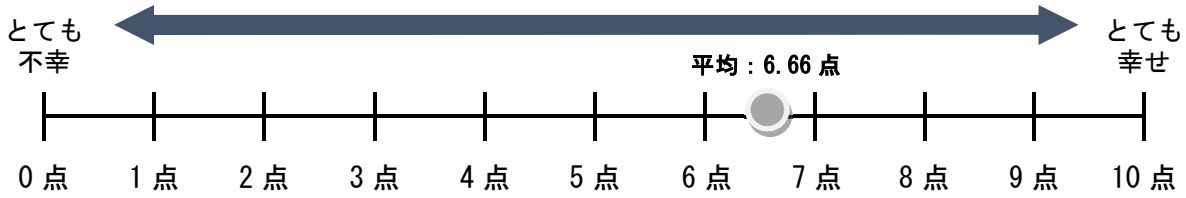
（１）市民の幸せ実感度

問　現在、あなたはどの程度幸せと感じていますか。「とても幸せ」を 10 点、
「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。【 1 つに○ 】

○ 市民の幸せ実感度は、平均で 6.66 点となっています。

○ 点数別では「8 点」が 19.5%と最も多く、次いで「5 点」が 19.4%、「7 点」が 18.6%となっており、平均値（6.66 点）に回答が集中しているのではなく、5～8 点の範囲に分布しています。

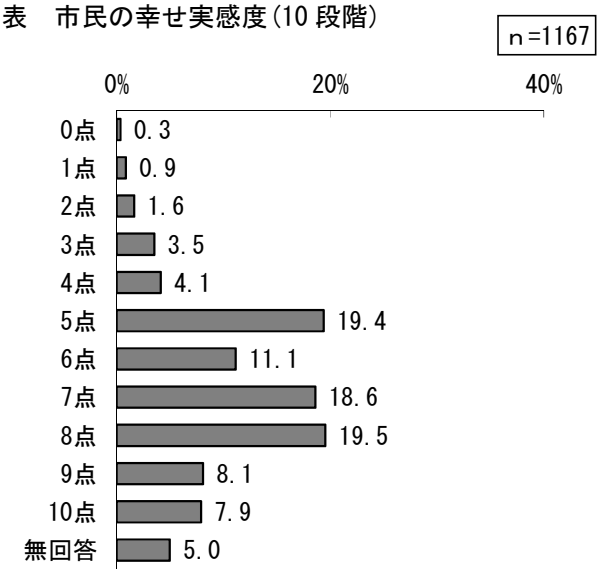
図表　市民の幸せ実感度（10 段階）



（n=1109）

	値
平均値	6.66

図表　市民の幸せ実感度（10 段階）

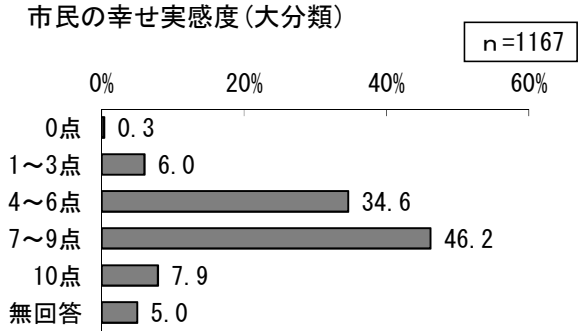


（n=1167）

	回答数	構成比
1　0 点	4	0.3%
2　1 点	10	0.9%
3　2 点	19	1.6%
4　3 点	41	3.5%
5　4 点	48	4.1%

		回答数	構成比
6	5 点	226	19.4%
7	6 点	130	11.1%
8	7 点	217	18.6%
9	8 点	228	19.5%
10	9 点	94	8.1%
11	10 点	92	7.9%
	無回答	58	5.0%

図表　市民の幸せ実感度(大分類)



(n=1167)

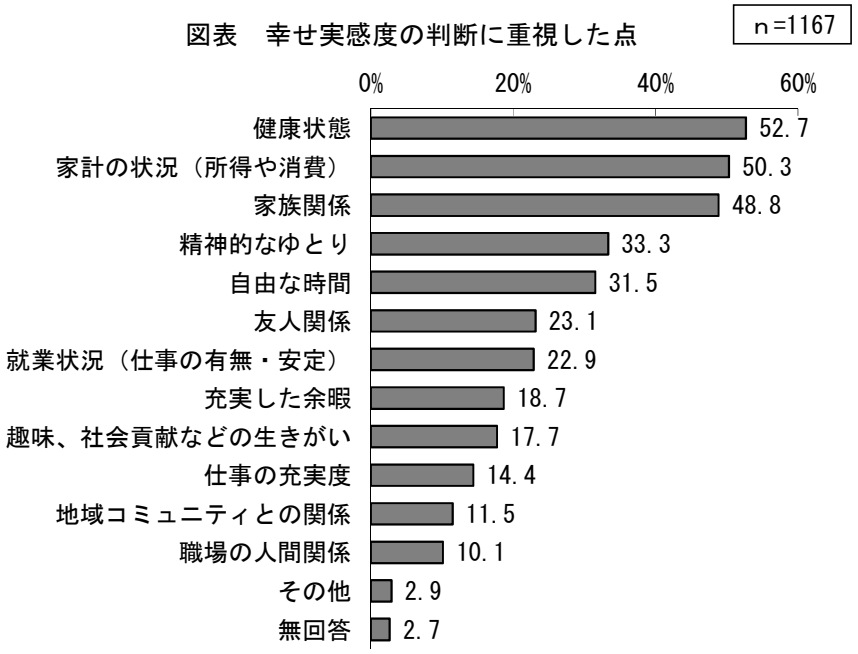
		回答数	構成比
1	0 点	4	0.3%
2	1～3 点	70	6.0%
3	4～6 点	404	34.6%
4	7～9 点	539	46.2%
5	10 点	92	7.9%
	無回答	58	5.0%

（２）市民の幸せ実感度の判断に重視した点

問　前問の幸せ実感度（0～10 点）を判断する際に、重視したことは何ですか。
【 あてはまるものすべてに○ 】

○ 幸せ実感度を判断する際に重視した点は、「健康状況」が 52.7%と最も多くなっています。次いで「家計の状況（所得や消費）」（50.3%）、「家族関係」（48.8%）を上位に挙げています。

図表　幸せ実感度の判断に重視した点



（n=1167）

		回答数	構成比
1	家計の状況（所得や消費）	587	50.3%
2	就業状況（仕事の有無・安定）	267	22.9%
3	健康状態	615	52.7%
4	自由な時間	368	31.5%
5	充実した余暇	218	18.7%
6	仕事の充実度	168	14.4%
7	精神的なゆとり	389	33.3%
8	趣味、社会貢献などの生きがい	207	17.7%
9	家族関係	570	48.8%
10	友人関係	270	23.1%
11	職場の人間関係	118	10.1%
12	地域コミュニティとの関係	134	11.5%
13	その他	34	2.9%
	無回答	31	2.7%

○ 幸せ実感度を判断する際に重視した点を性別・年齢別にみると、「健康状態」、「家計の状況（所得や消費）」、「家族関係」が概ね上位に挙がっています。

○ 特に 10･20 歳代では「自由な時間」、「友人関係」を上位に挙げるなど、年齢によって幸せ実感度を判断する際に重視する点が異なることがうかがえます。

図表　幸せ実感度を判断する際に重視した点（性別・年齢別：上位 3 項目）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
男性 (n=430)	家計の状況（所得や消費） 51.2%	健康状態 50.7%	家族関係 47.2%
女性 (n=634)	健康状態 54.7%	家計の状況（所得や消費） 51.9%	家族関係 51.9%
10･20 歳代 (n=67)	自由な時間 44.8%	家族関係 44.8%	友人関係 43.3%
30 歳代 (n=101)	家族関係 62.4%	家計の状況（所得や消費） 60.4%	健康状態 44.6%
40 歳代 (n=139)	家族関係 63.3%	家計の状況（所得や消費） 61.2%	健康状態 51.1%
50 歳代 (n=194)	家計の状況（所得や消費） 60.3%	健康状態 50.0%	家族関係 47.9%
60 歳代 (n=274)	健康状態 58.4%	家計の状況（所得や消費） 53.3%	家族関係 49.6%
70 歳以上 (n=379)	健康状態 55.7%	家族関係 42.0%	家計の状況（所得や消費） 41.2%

○ 幸せ実感度を判断する際に重視した点を点数別にみると、0 点、1～3 点と回答した方では、「家計の状況（所得や消費）」、「精神的なゆとり」を上位に挙げており、これらの項目が市民の幸せ実感度に大きく影響するとみられます。

図表　幸せ実感度を判断する際に重視した点（点数別：上位 3 項目）

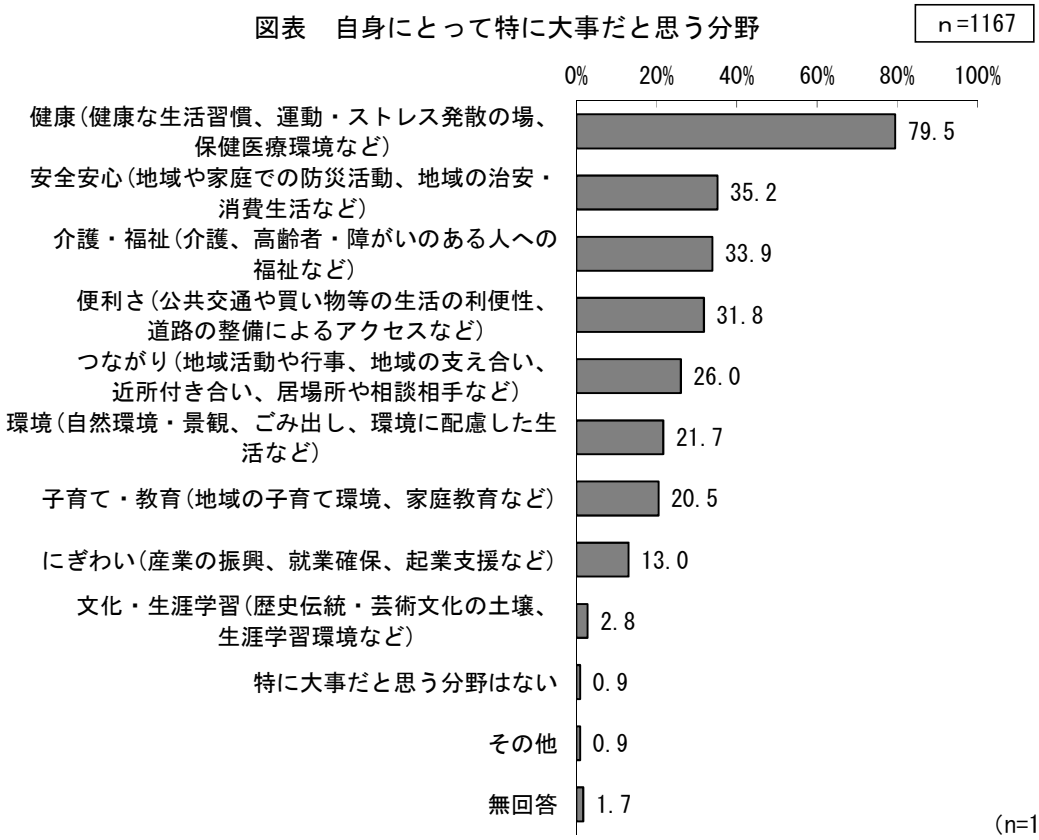
	第 1 位	第 2 位	第 3 位
0 点 (n=4)	精神的なゆとり 100.0%	家計の状況（所得や消費） 75.0%	就業状況 75.0%
1～3 点 (n=70)	家計の状況（所得や消費） 64.3%	精神的なゆとり 47.1%	健康状態 44.3%
4～6 点 (n=404)	家計の状況（所得や消費） 56.9%	健康状態 46.0%	家族関係 31.7%
7～9 点 (n=539)	家族関係 62.5%	健康状態 60.3%	家計の状況（所得や消費） 48.1%
10 点 (n=92)	家族関係 73.9%	健康状態 56.5%	精神的なゆとり 50.0%

（３）自身にとって特に大事だと思う分野

問　次の分野の中からあなたにとって「特に大事だと思う分野」はどれですか。
【 3 つまでに○ 】

○ 自身にとって特に大事だと思う分野は、「健康（健康な生活習慣、運動・ストレス発散の場、保健医療環境など）」が 79.5%と最も多く、次いで「安全安心（地域や家庭での防災活動、地域の治安・消費生活など）」が 35.2%、「介護・福祉（介護、高齢者・障がいのある人への福祉など）」が 33.9%となっています。

図表　自身にとって特に大事だと思う分野



（n=1167）

		回答数	構成比
1	健康（健康な生活習慣、運動・ストレス発散の場、保健医療環境など）	928	79.5%
2	子育て・教育（地域の子育て環境、家庭教育など）	239	20.5%
3	環境（自然環境・景観、ごみ出し、環境に配慮した生活など）	253	21.7%
4	つながり（地域活動や行事、地域の支え合い、近所付き合い、居場所や相談相手など）	304	26.0%
5	安全安心（地域や家庭での防災活動、地域の治安・消費生活など）	411	35.2%
6	便利さ（公共交通や買い物等の生活の利便性、道路の整備によるアクセスなど）	371	31.8%
7	にぎわい（産業の振興、就業確保、起業支援など）	152	13.0%
8	介護・福祉（介護、高齢者・障がいのある人への福祉など）	396	33.9%
9	文化・生涯学習（歴史伝統・芸術文化の土壌、生涯学習環境など）	33	2.8%
10	その他	11	0.9%
11	特に大事だと思う分野はない	11	0.9%
	無回答	20	1.7%

○ 自身にとって特に大事だと思う分野を性別・年齢別にみると、「健康」、「安全安心」、「介護・福祉」が概ね上位に挙がっています。

○ 特に 10･20 歳代では「便利さ」、70 歳以上では「つながり」を上位に挙げています。

図表　自身にとって特に大事だと思う分野（性別・年齢別：上位 3 項目）

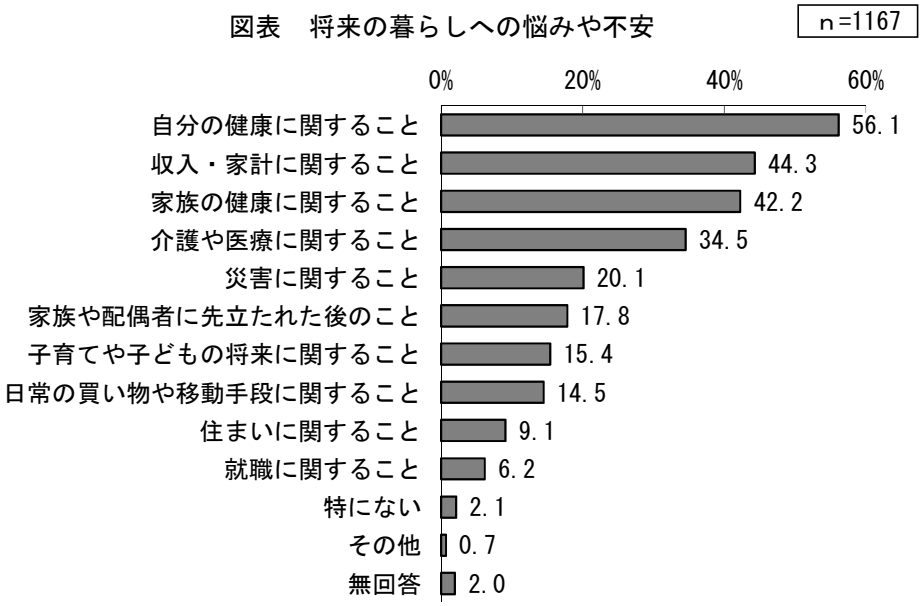
	第 1 位	第 2 位	第 3 位
男性 (n=430)	健康 78.4%	安全安心 34.7%	便利さ 32.8%
女性 (n=634)	健康 81.4%	介護・福祉 37.7%	安全安心 35.8%
10･20 歳代 (n=67)	健康 73.1%	便利さ 46.3%	安全安心 41.8%
30 歳代 (n=101)	健康 70.3%	子育て・教育 65.3%	安全安心 39.6%
40 歳代 (n=139)	健康 69.1%	子育て・教育 46.8%	安全安心 42.4%
50 歳代 (n=194)	健康 83.0%	介護・福祉 39.7%	便利さ 37.6%
60 歳代 (n=274)	健康 86.5%	安全安心 37.6%	介護・福祉 33.9%
70 歳以上 (n=379)	健康 81.0%	介護・福祉 42.7%	つながり 31.1%

（４）将来の暮らしへの悩みや不安

問　あなたは、将来の暮らしについて、どのようなことに悩みや不安を感じますか。
【 3 つまでに○ 】

○ 回答者の職業は、「自分の健康に関すること」が 56.1%と最も多くなっています。次いで「収入・家計に関すること」が 44.3%、「家族の健康に関すること」が 42.2%となっています。

図表　将来の暮らしへの悩みや不安



(n=1167)

		回答数	構成比
1	自分の健康に関すること	655	56.1%
2	家族の健康に関すること	493	42.2%
3	収入・家計に関すること	517	44.3%
4	就職に関すること	72	6.2%
5	住まいに関すること	106	9.1%
6	介護や医療に関すること	403	34.5%
7	子育てや子どもの将来に関すること	180	15.4%
8	家族や配偶者に先立たれた後のこと	208	17.8%
9	災害に関すること	235	20.1%
10	日常の買い物や移動手段に関すること	169	14.5%
11	その他	8	0.7%
12	特にない	25	2.1%
	無回答	23	2.0%

○ 将来の暮らしへの悩みや不安について、性別では男女ともに「自分の健康に関すること」、「収入・家計に関すること」、「家族の健康に関すること」上位に挙げています。

○ 年齢別にみると、10～50 歳代では「収入・家計に関すること」を将来の暮らしへの悩みや不安の最上位に挙げているほか、10･20 歳代では「就職に関すること」、30 歳代では「子育てや子どもの将来に関すること」、70 歳以上では「介護や医療に関すること」を上位に挙げており、年齢やライフステージにおける悩みや不安の特徴とみられます。

図表　将来の暮らしへの悩みや不安（性別・年齢別：上位 3 項目）

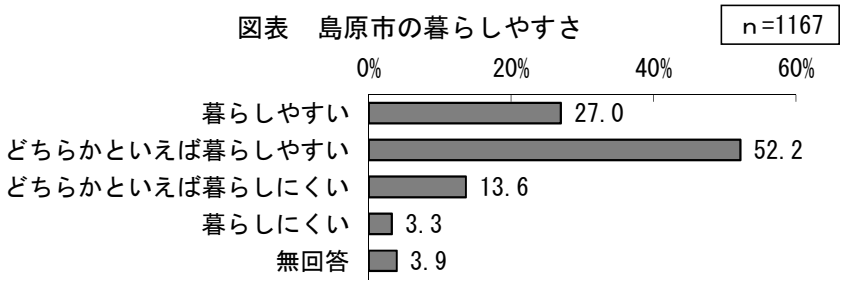
	第 1 位	第 2 位	第 3 位
男性 (n=430)	自分の健康に関すること 53.5%	収入・家計に関すること 47.0%	家族の健康に関すること 43.5%
女性 (n=634)	自分の健康に関すること 56.8%	収入・家計に関すること 43.7%	家族の健康に関すること 42.1%
10･20 歳代 (n=67)	収入・家計に関すること 52.2%	就職に関すること 37.3%	災害に関すること 34.3%
30 歳代 (n=101)	収入・家計に関すること 61.4%	子育てや子どもの将来に関すること 50.5%	自分の健康に関すること 33.7%
40 歳代 (n=139)	収入・家計に関すること 56.8%	家族の健康に関すること 48.9%	自分の健康に関すること 43.2%
50 歳代 (n=194)	収入・家計に関すること 57.2%	自分の健康に関すること 53.1%	家族の健康に関すること 50.5%
60 歳代 (n=274)	自分の健康に関すること 66.4%	収入・家計に関すること 47.8%	家族の健康に関すること 46.0%
70 歳以上 (n=379)	自分の健康に関すること 67.5%	介護や医療に関すること 42.5%	家族の健康に関すること 39.6%

（５）島原市の暮らしやすさ

問　現在の生活環境を総合的にみて、あなたは、島原市が暮らしやすいまちであると思いますか。理由もあわせてお聞かせください。【 １つに○ 理由を記入 】

○ 回答者の島原市の暮らしやすさは、「どちらかといえば暮らしやすい」が 52.2%と最も多く、次いで「暮らしやすい」が 27.0%、「どちらかと言えば暮らしにくい」が 13.6%となっています。

図表　島原市の暮らしやすさ



(n=1167)

		回答数	構成比
1	暮らしやすい	315	27.0%
2	どちらかといえば暮らしやすい	609	52.2%
3	どちらかといえば暮らしにくい	159	13.6%
4	暮らしにくい	38	3.3%
	無回答	46	3.9%

図表　島原市の暮らしやすさ（性別・年齢）

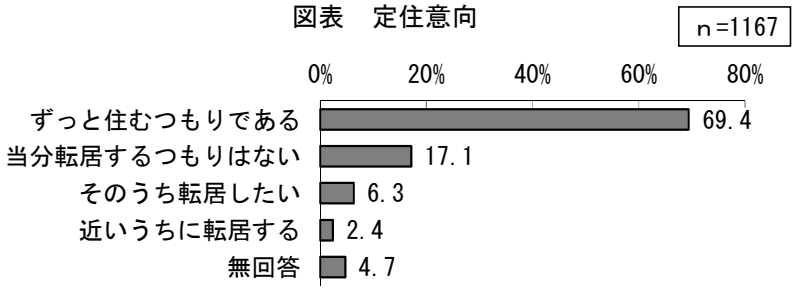
	暮らしやすい	どちらかといえば暮らしやすい	どちらかといえば暮らしにくい	暮らしにくい	無回答
男性(n=430)	28.6%	49.8%	15.6%	2.3%	3.7%
女性(n=634)	27.6%	53.9%	11.7%	3.6%	3.2%
10･20 歳代(n=67)	20.9%	58.2%	14.9%	4.5%	1.5%
30 歳代(n=101)	24.8%	49.5%	15.8%	5.9%	4.0%
40 歳代(n=139)	23.7%	54.7%	18.0%	2.9%	0.7%
50 歳代(n=194)	18.0%	58.2%	17.5%	3.6%	2.6%
60 歳代(n=274)	23.4%	57.3%	12.8%	2.6%	4.0%
70 歳以上(n=379)	38.0%	43.8%	9.8%	2.6%	5.8%

（６）定住意向と住み続けたい・転居したい理由

問　あなたは、島原市にこれからも住んでいたいと思いますか。【 １つに○ 】住み続けたい、転居したい理由についてもあわせてお聞かせください。

○ 回答者の定住意向は、「ずっと住むつもりである」が 69.4%と最も多くなっています。次いで「当分転居するつもりはない」が 17.1%、「そのうち転居したい」が 6.3%となっています。

図表　定住意向



（n=1167）

		回答数	構成比
1	ずっと住むつもりである	810	69.4%
2	当分転居するつもりはない	200	17.1%
3	そのうち転居したい	74	6.3%
4	近いうちに転居する	28	2.4%
	無回答	55	4.7%

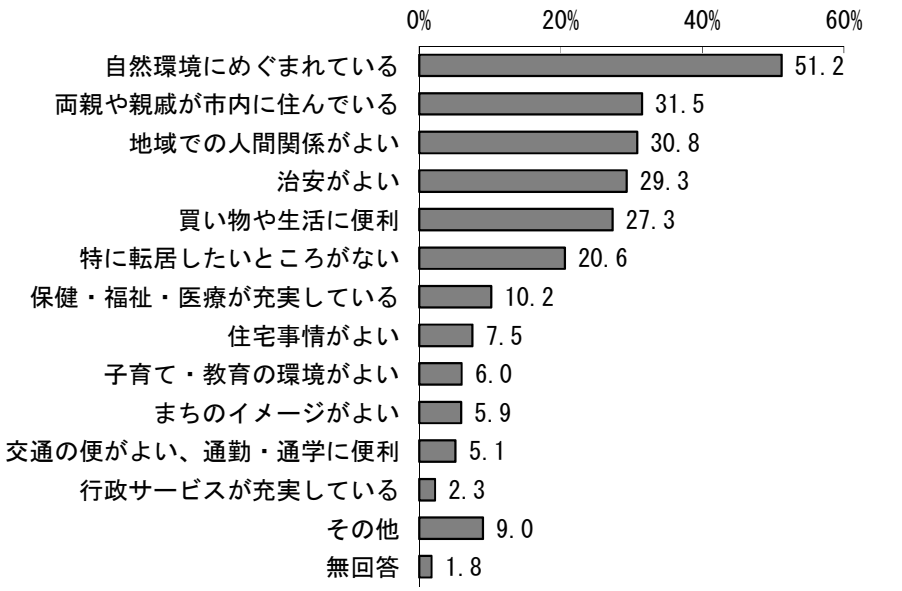
図表　定住意向（性別・年齢）

	ずっと住むつもりである	当分転居するつもりはない	そのうち転居したい	近いうちに転居する	無回答
男性(n=430)	70.7%	15.8%	6.5%	2.8%	4.2%
女性(n=634)	68.5%	19.1%	6.2%	2.5%	3.8%
10･20 歳代(n=67)	32.8%	25.4%	22.4%	19.4%	0.0%
30 歳代(n=101)	50.5%	28.7%	11.9%	7.9%	1.0%
40 歳代(n=139)	55.4%	32.4%	8.6%	0.7%	2.9%
50 歳代(n=194)	65.5%	20.6%	9.3%	1.5%	3.1%
60 歳代(n=274)	77.7%	13.1%	1.8%	0.4%	6.9%
70 歳以上(n=379)	82.3%	8.4%	2.9%	0.5%	5.8%

①　住み続けたい理由【 3 つまでに○ 】

○ 回答者の住み続けたい理由は、「自然環境にめぐまれている」が 51.2%と最も多くなっています。次いで「両親や親戚が市内に住んでいる」が 31.5%、「地域での人間関係がよい」が 30.8%となっています。

図表　住み続けたい理由　　n=1010



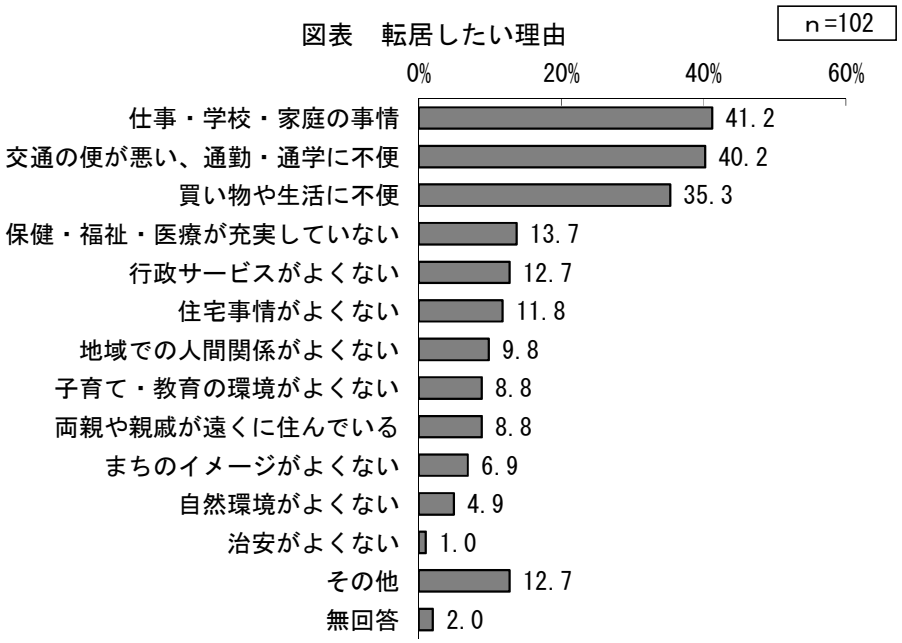
（n=1010）

		回答数	構成比
1	自然環境にめぐまれている	517	51.2%
2	地域での人間関係がよい	311	30.8%
3	買い物や生活に便利	276	27.3%
4	交通の便がよい、通勤・通学に便利	52	5.1%
5	子育て・教育の環境がよい	61	6.0%
6	保健・福祉・医療が充実している	103	10.2%
7	行政サービスが充実している	23	2.3%
8	住宅事情がよい	76	7.5%
9	治安がよい	296	29.3%
10	まちのイメージがよい	60	5.9%
11	両親や親戚が市内に住んでいる	318	31.5%
12	特に転居したいところがない	208	20.6%
13	その他	91	9.0%
	無回答	18	1.8%

②　転居したい理由【 3 つまでに○ 】

○ 回答者の転居したい理由は、「仕事・学校・家庭の事情」が 41.2%と最も多くなっています。次いで「交通の便が悪い、通勤・通学に不便」が 40.2%、「買い物や生活に不便」が 35.3%となっています。

図表　転居したい理由



(n=102)

		回答数	構成比
1	自然環境がよくない	5	4.9%
2	地域での人間関係がよくない	10	9.8%
3	買い物や生活に不便	36	35.3%
4	交通の便が悪い、通勤・通学に不便	41	40.2%
5	子育て・教育の環境がよくない	9	8.8%
6	保健・福祉・医療が充実していない	14	13.7%
7	行政サービスがよくない	13	12.7%
8	住宅事情がよくない	12	11.8%
9	治安がよくない	1	1.0%
10	まちのイメージがよくない	7	6.9%
11	両親や親戚が遠くに住んでいる	9	8.8%
12	仕事・学校・家庭の事情	42	41.2%
13	その他	13	12.7%
	無回答	2	2.0%

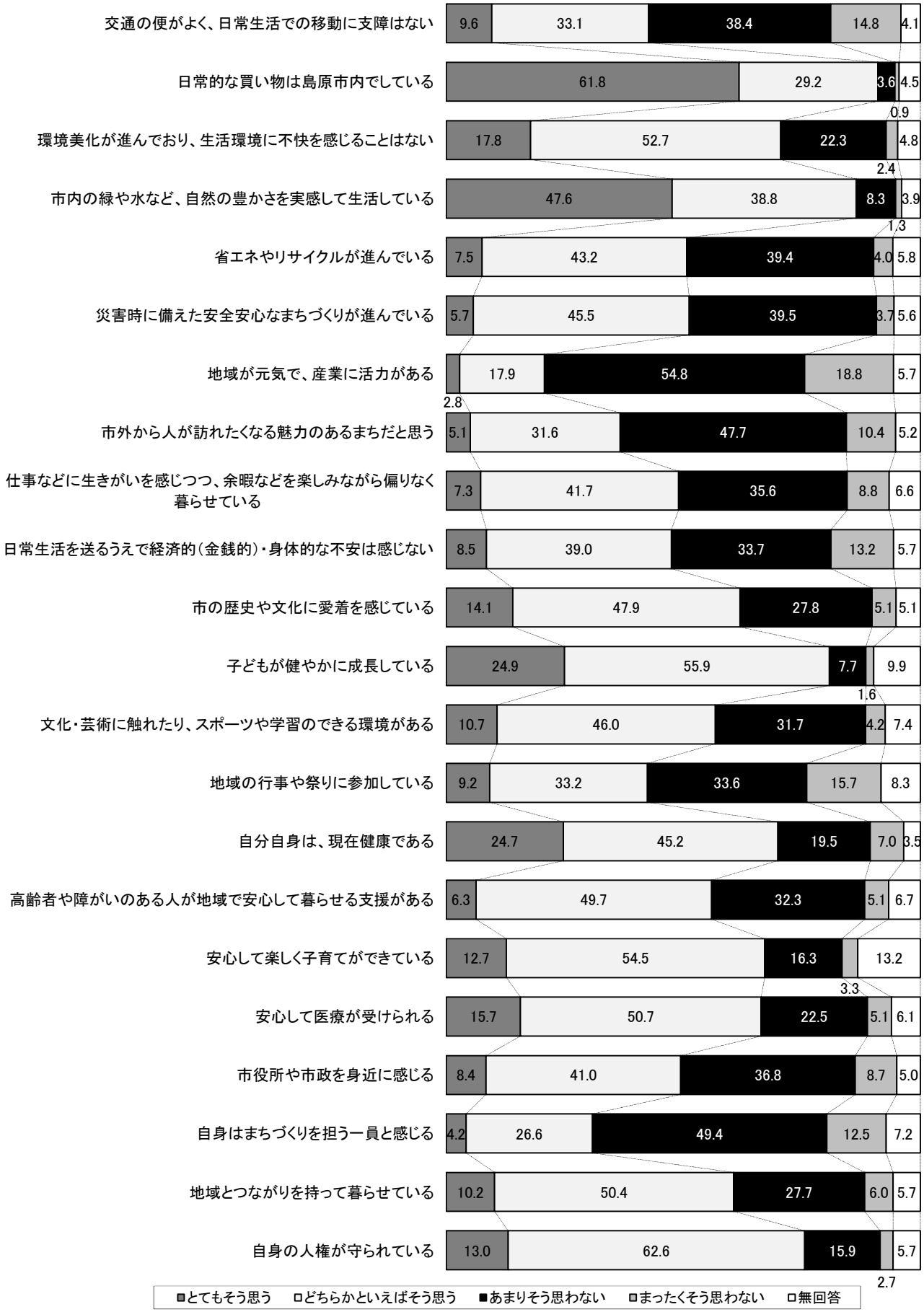
（７）普段の暮らしで感じることや取り組んでいること

問　次の各項目について、あなたがふだんの暮らしで感じることや取り組んでいることに、どの程度あてはまるかについてお聞かせください。

○ 普段の暮らしで感じることや取り組んでいることとして、各項目で「どちらかといえばそう思う」、「あまりそう思わない」が多くなっているなかで、「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が特に高い項目として、「自身の人権が守られている」、「子どもが健やかに成長している」、「安心して楽しく子育てができている」などがみられます。

○ すべての項目のなかで、「とてもそう思う」と回答した割合が最も高いのは「日常的な買い物は島原市内でしている」（61.8%）、「まったくそう思わない」と回答した割合が最も高いのは「地域が元気で、産業に活力がある」（18.8%）となっています。

図表　普段の暮らしで感じることや取り組んでいること



（n=1167）

			回答数	構成比
(1)	交通の便がよく、日常生活での移動に支障はない	1	とてもそう思う	112	9.6%
		2	どちらかといえばそう思う	386	33.1%
		3	あまりそう思わない	448	38.4%
		4	まったくそう思わない	173	14.8%
			無回答	48	4.1%
(2)	日常的な買い物は島原市内でしている	1	とてもそう思う	721	61.8%
		2	どちらかといえばそう思う	341	29.2%
		3	あまりそう思わない	42	3.6%
		4	まったくそう思わない	11	0.9%
			無回答	52	4.5%
(3)	環境美化が進んでおり、生活環境に不快を感じることはない	1	とてもそう思う	208	17.8%
		2	どちらかといえばそう思う	615	52.7%
		3	あまりそう思わない	260	22.3%
		4	まったくそう思わない	28	2.4%
			無回答	56	4.8%
(4)	市内の緑や水など、自然の豊かさを実感して生活している	1	とてもそう思う	556	47.6%
		2	どちらかといえばそう思う	453	38.8%
		3	あまりそう思わない	97	8.3%
		4	まったくそう思わない	15	1.3%
			無回答	46	3.9%
(5)	省エネやリサイクルが進んでいる	1	とてもそう思う	88	7.5%
		2	どちらかといえばそう思う	504	43.2%
		3	あまりそう思わない	460	39.4%
		4	まったくそう思わない	47	4.0%
			無回答	68	5.8%
(6)	災害時に備えた安全安心なまちづくりが進んでいる	1	とてもそう思う	67	5.7%
		2	どちらかといえばそう思う	531	45.5%
		3	あまりそう思わない	461	39.5%
		4	まったくそう思わない	43	3.7%
			無回答	65	5.6%
(7)	地域が元気で、産業に活力がある	1	とてもそう思う	33	2.8%
		2	どちらかといえばそう思う	209	17.9%
		3	あまりそう思わない	640	54.8%
		4	まったくそう思わない	219	18.8%
			無回答	66	5.7%
(8)	市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う	1	とてもそう思う	59	5.1%
		2	どちらかといえばそう思う	369	31.6%
		3	あまりそう思わない	557	47.7%
		4	まったくそう思わない	121	10.4%
			無回答	61	5.2%

				回答数	構成比
(9)	仕事などに生きがいを感じつつ、余暇などを楽しみながら偏りなく暮らせている	1	とてもそう思う	85	7.3%
		2	どちらかといえばそう思う	487	41.7%
		3	あまりそう思わない	415	35.6%
		4	まったくそう思わない	103	8.8%
			無回答	77	6.6%
(10)	日常生活を送るうえで経済的（金銭的）・身体的な不安は感じない	1	とてもそう思う	99	8.5%
		2	どちらかといえばそう思う	455	39.0%
		3	あまりそう思わない	393	33.7%
		4	まったくそう思わない	154	13.2%
			無回答	66	5.7%
(11)	市の歴史や文化に愛着を感じている	1	とてもそう思う	164	14.1%
		2	どちらかといえばそう思う	559	47.9%
		3	あまりそう思わない	325	27.8%
		4	まったくそう思わない	59	5.1%
			無回答	60	5.1%
(12)	子どもが健やかに成長している	1	とてもそう思う	291	24.9%
		2	どちらかといえばそう思う	652	55.9%
		3	あまりそう思わない	90	7.7%
		4	まったくそう思わない	19	1.6%
			無回答	115	9.9%
(13)	文化・芸術に触れたり、スポーツや学習のできる環境がある	1	とてもそう思う	125	10.7%
		2	どちらかといえばそう思う	537	46.0%
		3	あまりそう思わない	370	31.7%
		4	まったくそう思わない	49	4.2%
			無回答	86	7.4%
(14)	地域の行事や祭りに参加している	1	とてもそう思う	107	9.2%
		2	どちらかといえばそう思う	388	33.2%
		3	あまりそう思わない	392	33.6%
		4	まったくそう思わない	183	15.7%
			無回答	97	8.3%
(15)	自分自身は、現在健康である	1	とてもそう思う	288	24.7%
		2	どちらかといえばそう思う	528	45.2%
		3	あまりそう思わない	228	19.5%
		4	まったくそう思わない	82	7.0%
			無回答	41	3.5%
(16)	高齢者や障がいのある人が地域で安心して暮らせる支援がある	1	とてもそう思う	73	6.3%
		2	どちらかといえばそう思う	580	49.7%
		3	あまりそう思わない	377	32.3%
		4	まったくそう思わない	59	5.1%
			無回答	78	6.7%

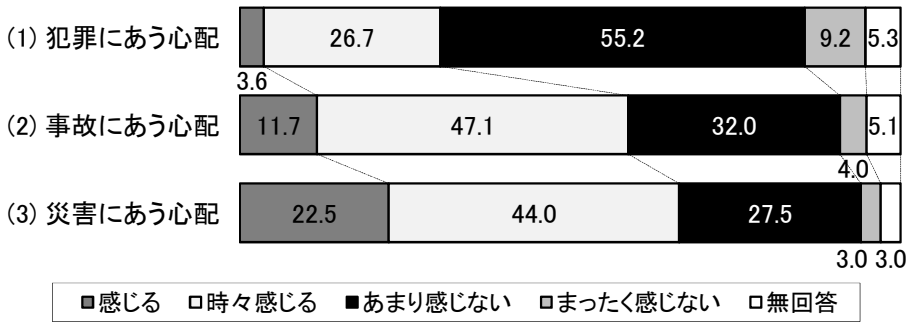
			回答数	構成比
(17) 安心して楽しく子育てができている	1	とてもそう思う	148	12.7%
	2	どちらかといえばそう思う	636	54.5%
	3	あまりそう思わない	190	16.3%
	4	まったくそう思わない	39	3.3%
		無回答	154	13.2%
(18) 安心して医療が受けられる	1	とてもそう思う	183	15.7%
	2	どちらかといえばそう思う	592	50.7%
	3	あまりそう思わない	262	22.5%
	4	まったくそう思わない	59	5.1%
		無回答	71	6.1%
(19) 市役所や市政を身近に感じる	1	とてもそう思う	98	8.4%
	2	どちらかといえばそう思う	479	41.0%
	3	あまりそう思わない	430	36.8%
	4	まったくそう思わない	102	8.7%
		無回答	58	5.0%
(20) 自身はまちづくりを担う一員と感じる	1	とてもそう思う	49	4.2%
	2	どちらかといえばそう思う	311	26.6%
	3	あまりそう思わない	577	49.4%
	4	まったくそう思わない	146	12.5%
		無回答	84	7.2%
(21) 地域とつながりを持って暮らせている	1	とてもそう思う	119	10.2%
	2	どちらかといえばそう思う	588	50.4%
	3	あまりそう思わない	323	27.7%
	4	まったくそう思わない	70	6.0%
		無回答	67	5.7%
(22) 自身の人権が守られている	1	とてもそう思う	152	13.0%
	2	どちらかといえばそう思う	730	62.6%
	3	あまりそう思わない	186	15.9%
	4	まったくそう思わない	32	2.7%
		無回答	67	5.7%

（８）市内での心配事

問　あなたは、以下の項目について、市内で心配に感じることがありますか。【 各項目あてはまるもの１つに○ 】

○ 市内での心配事として、心配に感じること（「感じる」、「時々感じる」の合計）では、「犯罪にあう心配」は 30.3%、「事故にあう心配」は 58.8%、「災害にあう心配」は 66.5%と回答しています。

図表　市内での心配事



（n=1167）

		回答数	構成比
(1)　犯罪にあう心配	1　感じる	42	3.6%
	2　時々感じる	312	26.7%
	3　あまり感じない	644	55.2%
	4　まったく感じない	107	9.2%
	無回答	62	5.3%
(2)　事故にあう心配	1　感じる	136	11.7%
	2　時々感じる	550	47.1%
	3　あまり感じない	374	32.0%
	4　まったく感じない	47	4.0%
	無回答	60	5.1%
(3)　災害にあう心配	1　感じる	263	22.5%
	2　時々感じる	513	44.0%
	3　あまり感じない	321	27.5%
	4　まったく感じない	35	3.0%
	無回答	35	3.0%

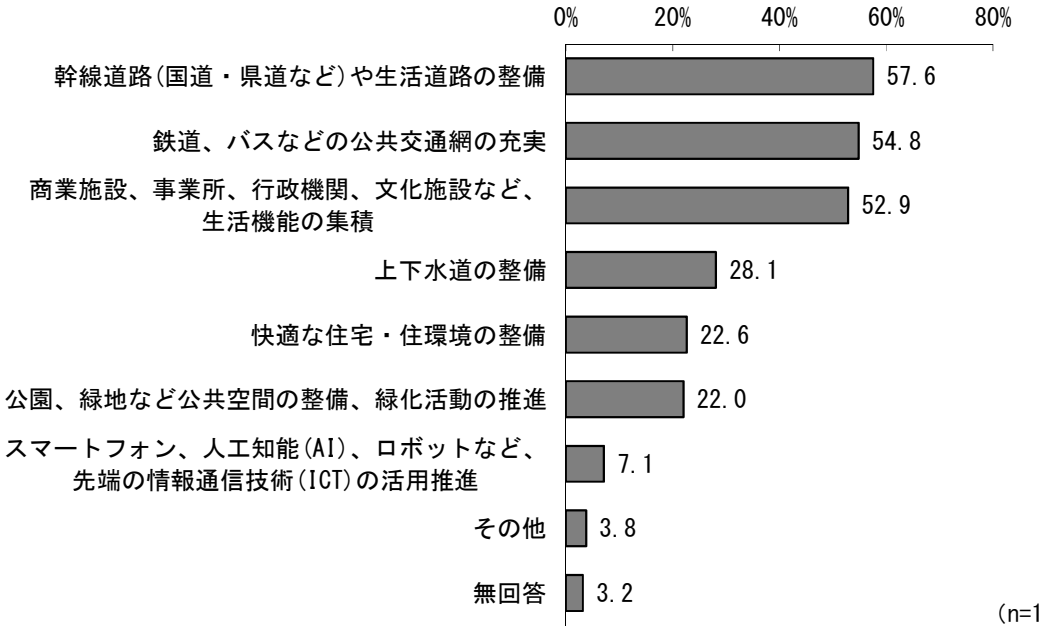
３　島原市の取り組みについて

（１）今後の都市基盤、交通・生活環境整備で重要なこと

問　あなたは、今後 5 年間（2020 年～2024 年、以下同様）の市内の「都市基盤」や「交通・生活環境」の整備を進めるうえで、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。
【 3 つまでに○ 】

○ 今後の都市基盤、交通・生活環境整備で重要なことは、「幹線道路（国道・県道など）や生活道路の整備」が 57.6%と最も多くなっています。次いで「鉄道、バスなどの公共交通網の充実」が 54.8%、「商業施設、事業所、行政機関、文化施設など、生活機能の集積」が 52.9%となっています。

図表　今後の都市基盤、交通・生活環境整備で重要なこと　n=1167



（n=1167）

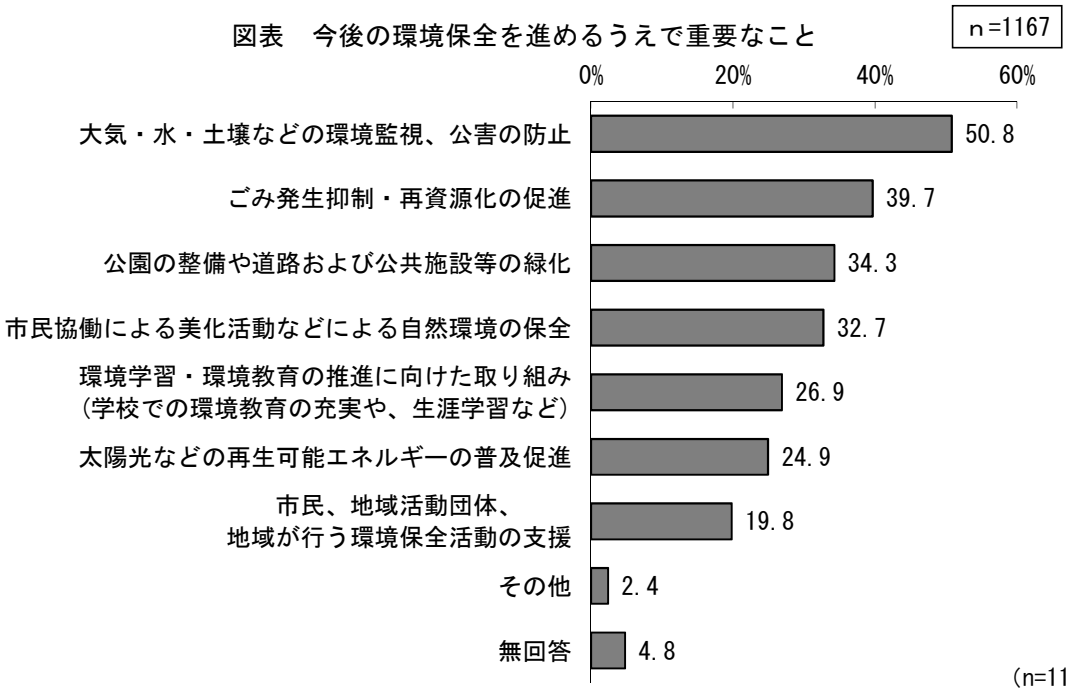
		回答数	構成比
1	幹線道路（国道・県道など）や生活道路の整備	672	57.6%
2	商業施設、事業所、行政機関、文化施設など、生活機能の集積	617	52.9%
3	鉄道、バスなどの公共交通網の充実	640	54.8%
4	公園、緑地など公共空間の整備、緑化活動の推進	257	22.0%
5	快適な住宅・住環境の整備	264	22.6%
6	上下水道の整備	328	28.1%
7	スマートフォン、人工知能（AI）、ロボットなど、先端の情報通信技術（ICT）の活用推進	83	7.1%
8	その他	44	3.8%
	無回答	37	3.2%

（２）今後の環境保全を進めるうえで重要なこと

問　あなたは、今後５年間の市内の「環境保全」を進めるうえで、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 ３つまでに○ 】

○ 今後の環境保全を進めるうえで重要なことは、「大気・水・土壌などの環境監視、公害の防止」が 50.8%と最も多くなっています。次いで「ごみ発生抑制・再資源化の促進」が 39.7%、「公園の整備や道路および公共施設等の緑化」が 34.3%となっています。

図表　今後の環境保全を進めるうえで重要なこと



（n=1167）

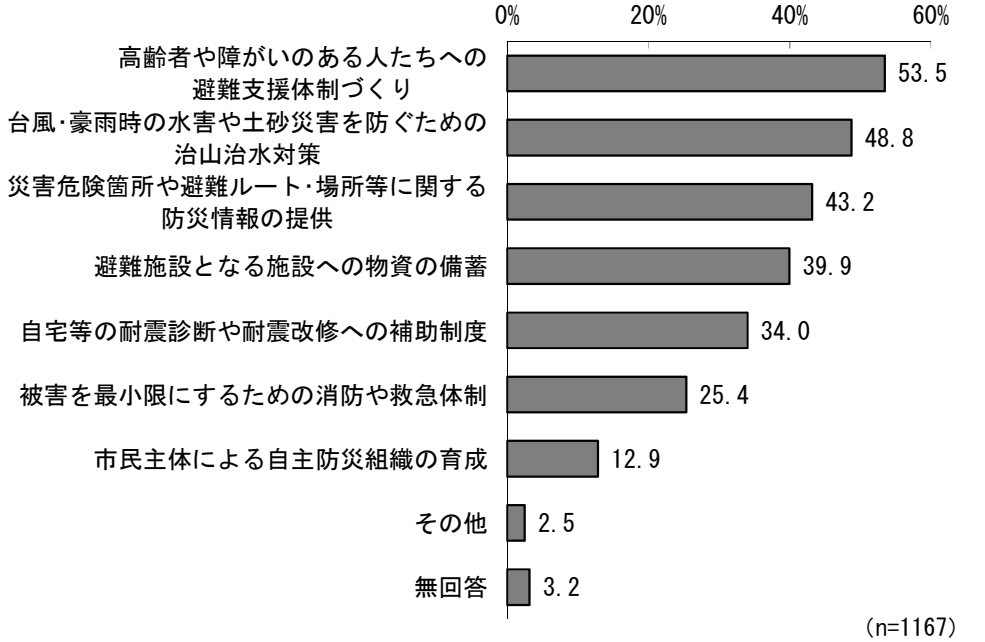
		回答数	構成比
1	市民協働による美化活動などによる自然環境の保全	382	32.7%
2	大気・水・土壌などの環境監視、公害の防止	593	50.8%
3	太陽光などの再生可能エネルギーの普及促進	291	24.9%
4	公園の整備や道路および公共施設等の緑化	400	34.3%
5	ごみ発生抑制・再資源化の促進	463	39.7%
6	環境学習・環境教育の推進に向けた取り組み（学校での環境教育の充実や、生涯学習など）	314	26.9%
7	市民、地域活動団体、地域が行う環境保全活動の支援	231	19.8%
8	その他	28	2.4%
	無回答	56	4.8%

（３）今後の災害に関する取り組みを進めるうえで重要なこと

問　あなたは、今後５年間の市内の「災害に関する取り組み」を進めるうえで、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 ３つまでに○ 】

○ 今後の災害に関する取り組みを進めるうえで重要なことは、「高齢者や障がいのある人たちへの避難支援体制づくり」が 53.5%と最も多くなっています。次いで「台風・豪雨時の水害や土砂災害を防ぐための治山治水対策」が 48.8%、「災害危険箇所や避難ルート・場所等に関する防災情報の提供」が 43.2%となっています。

図表　今後の災害に関する取り組みを進めるうえで重要なこと　　ｎ=1167



（n=1167）

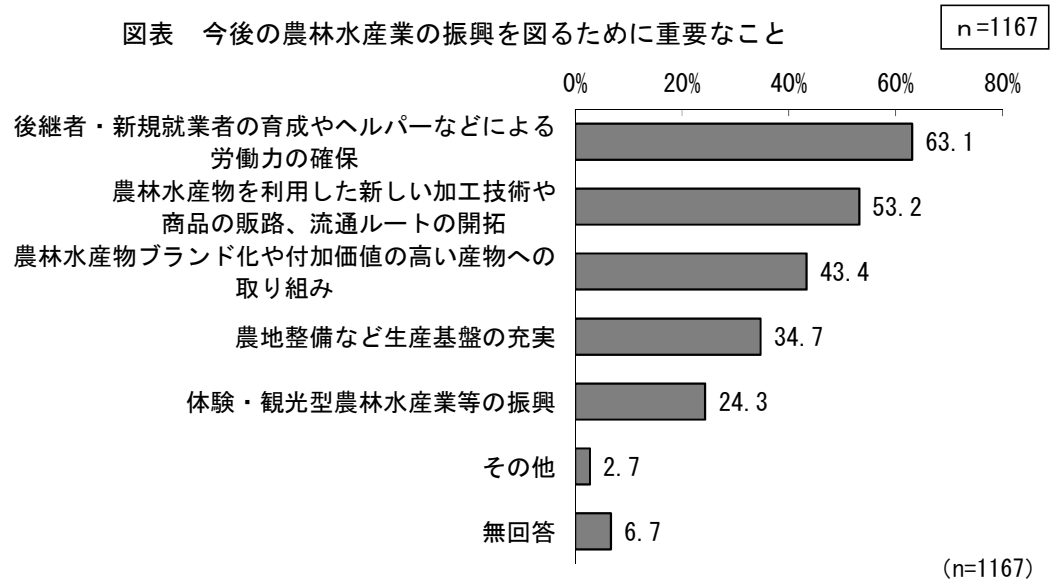
		回答数	構成比
1	避難施設となる施設への物資の備蓄	466	39.9%
2	高齢者や障がいのある人たちへの避難支援体制づくり	624	53.5%
3	災害危険箇所や避難ルート･場所等に関する防災情報の提供	504	43.2%
4	市民主体による自主防災組織の育成	150	12.9%
5	被害を最小限にするための消防や救急体制	296	25.4%
6	自宅等の耐震診断や耐震改修への補助制度	397	34.0%
7	台風･豪雨時の水害や土砂災害を防ぐための治山治水対策	569	48.8%
8	その他	29	2.5%
	無回答	37	3.2%

（４）今後の農林水産業の振興を図るために重要なこと

問　あなたは、今後５年間の市内の「農林水産業の振興」を図るために、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 ３つまでに○ 】

○ 今後の農林水産業の振興を図るために重要なことは、「後継者・新規就業者の育成やヘルパーなどによる労働力の確保」が 63.1%と最も多くなっています。次いで「農林水産物を利用した新しい加工技術や商品の販路、流通ルートの開拓」が 53.2%、「農林水産物ブランド化や付加価値の高い産物への取り組み」が 43.4%となっています。

図表　今後の農林水産業の振興を図るために重要なこと



(n=1167)

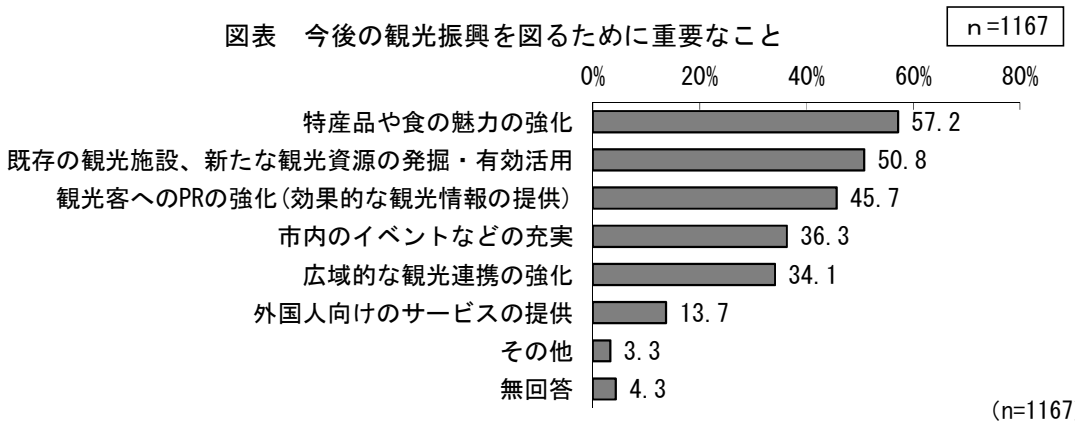
		回答数	構成比
1	農地整備など生産基盤の充実	405	34.7%
2	後継者・新規就業者の育成やヘルパーなどによる労働力の確保	736	63.1%
3	農林水産物ブランド化や付加価値の高い産物への取り組み	506	43.4%
4	農林水産物を利用した新しい加工技術や商品の販路、流通ルートの開拓	621	53.2%
5	体験・観光型農林水産業等の振興	284	24.3%
6	その他	32	2.7%
	無回答	78	6.7%

（５）今後の観光振興を図るために重要なこと

問　あなたは、今後５年間の「観光振興」を図るために、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 3 つまでに○ 】

○ 今後の観光振興を図るために重要なことは、「特産品や食の魅力の強化」が 57.2%と最も多くなっています。次いで「既存の観光施設、新たな観光資源の発掘・有効活用」が 50.8%、「観光客への PR の強化（効果的な観光情報の提供）」が 45.7%となっています。

図表　今後の観光振興を図るために重要なこと



（n=1167）

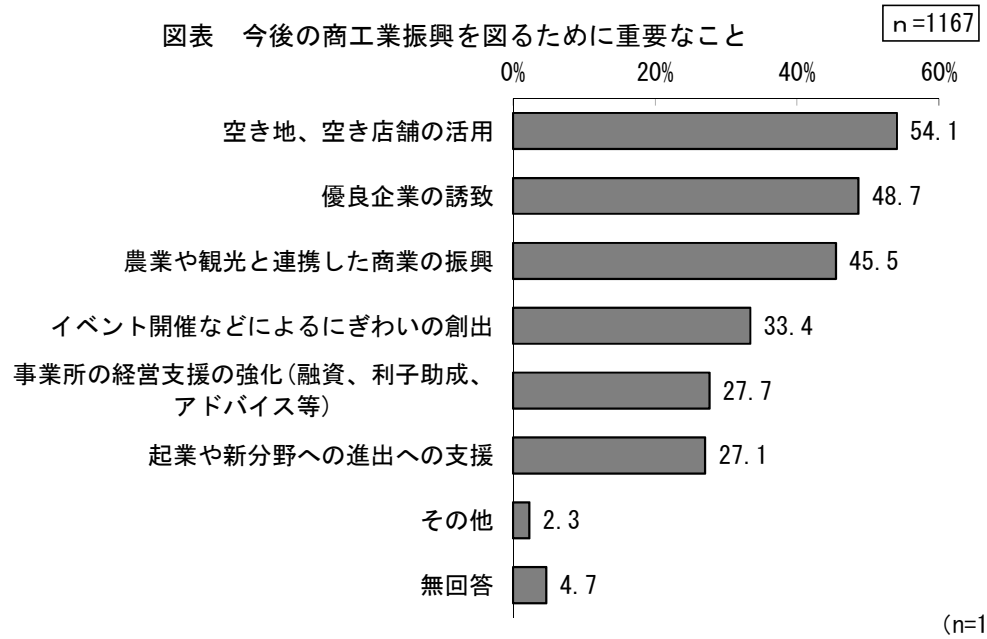
		回答数	構成比
1	既存の観光施設、新たな観光資源の発掘・有効活用	593	50.8%
2	特産品や食の魅力の強化	667	57.2%
3	市内のイベントなどの充実	424	36.3%
4	広域的な観光連携の強化	398	34.1%
5	観光客への PR の強化（効果的な観光情報の提供）	533	45.7%
6	外国人向けのサービスの提供	160	13.7%
7	その他	38	3.3%
	無回答	50	4.3%

（６）今後の商工業振興を図るために重要なこと

問　あなたは、今後５年間の「商工業振興」を図るために、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 ３つまでに○ 】

○ 今後、商工業振興を図るために重要なことは、「空き地、空き店舗の活用」が 54.1%と最も多くなっています。次いで「優良企業の誘致」が 48.7%、「農業や観光と連携した商業の振興」が 45.5%となっています。

図表　今後の商工業振興を図るために重要なこと



(n=1167)

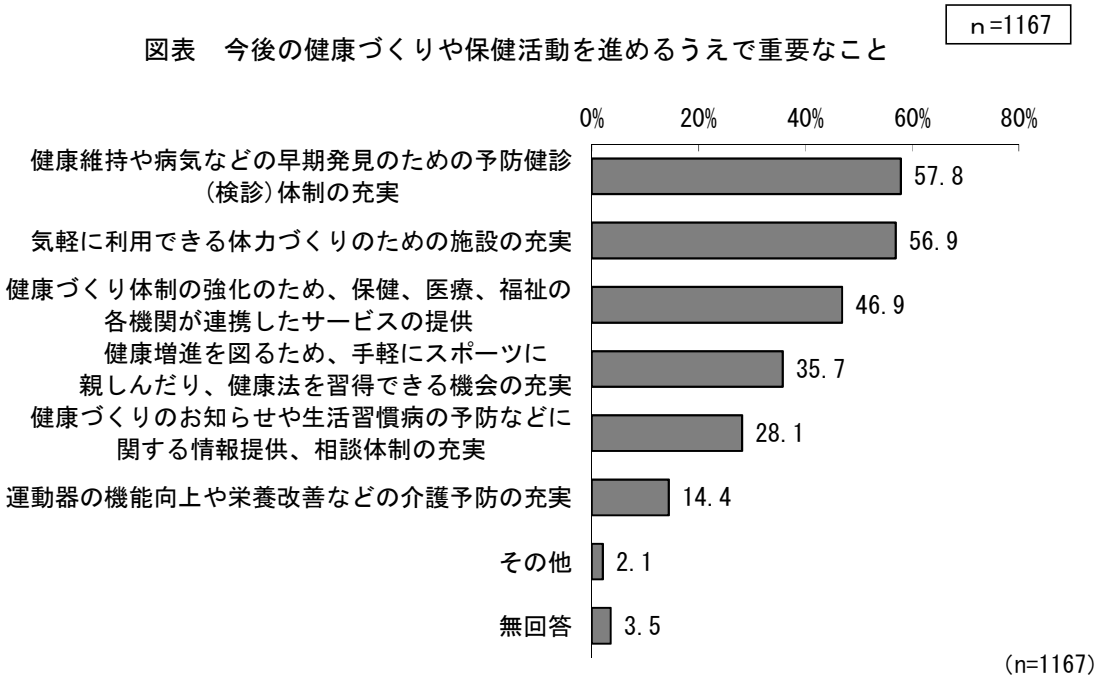
		回答数	構成比
1	事業所の経営支援の強化（融資、利子助成、アドバイス等）	323	27.7%
2	優良企業の誘致	568	48.7%
3	起業や新分野への進出への支援	316	27.1%
4	イベント開催などによるにぎわいの創出	390	33.4%
5	農業や観光と連携した商業の振興	531	45.5%
6	空き地、空き店舗の活用	631	54.1%
7	その他	27	2.3%
	無回答	55	4.7%

（７）今後の健康づくりや保健活動を進めるうえで重要なこと

問　あなたは、今後５年間の「健康づくり」や「保健活動」を進めるうえで、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 ３つまでに○ 】

○ 今後の健康づくりや保健活動を進めるうえで重要なことについては、「健康維持や病気などの早期発見のための予防健診（検診）体制の充実」が 57.8%と最も多くなっています。次いで「気軽に利用できる体力づくりのための施設の充実」が 56.9%、「健康づくり体制の強化のため、保健、医療、福祉の各機関が連携したサービスの提供」が 46.9%となっています。

図表　今後の健康づくりや保健活動を進めるうえで重要なこと



（n=1167）

		回答数	構成比
1	健康維持や病気などの早期発見のための予防健診（検診）体制の充実	675	57.8%
2	健康づくりのお知らせや生活習慣病の予防などに関する情報提供、相談体制の充実	328	28.1%
3	健康増進を図るため、手軽にスポーツに親しんだり、健康法を習得できる機会の充実	417	35.7%
4	健康づくり体制の強化のため、保健、医療、福祉の各機関が連携したサービスの提供	547	46.9%
5	※運動器の機能向上や栄養改善などの介護予防の充実	168	14.4%
6	気軽に利用できる体力づくりのための施設の充実	664	56.9%
7	その他	24	2.1%
	無回答	41	3.5%

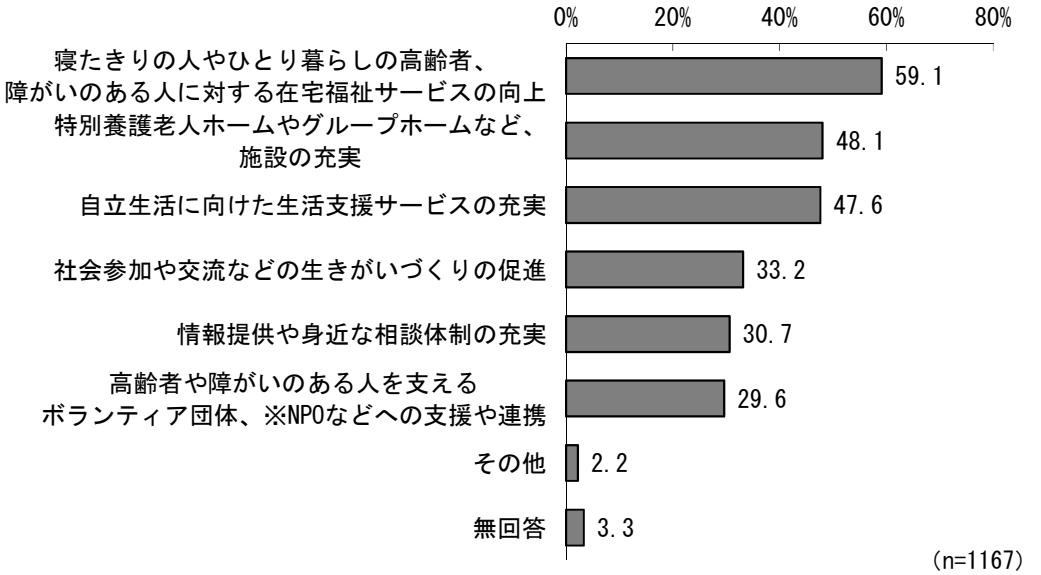
※運動器：骨・関節・筋肉・神経などの身体を支えたり動かしたりする組織・器官の総称

（８）今後の高齢者、要介護者、障がいのある人への支援で重要なこと

問　あなたは、今後５年間の「高齢者」や「要介護者」、「障がいのある人」への支援として、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 3 つまでに○ 】

○ 今後の高齢者、要介護者、障がいのある人への支援で重要なことは、「寝たきりの人やひとり暮らしの高齢者、障がいのある人に対する在宅福祉サービスの向上」が59.1%と最も多くなっています。次いで「特別養護老人ホームやグループホームなど、施設の充実」が48.1%、「自立生活に向けた生活支援サービスの充実」が47.6%となっています。

図表　今後の高齢者、要介護者、障がいのある人への支援で重要なこと　n=1167



（n=1167）

		回答数	構成比
1	社会参加や交流などの生きがいづくりの促進	387	33.2%
2	自立生活に向けた生活支援サービスの充実	556	47.6%
3	高齢者や障がいのある人を支えるボランティア団体、※NPO などへの支援や連携	346	29.6%
4	特別養護老人ホームやグループホームなど、施設の充実	561	48.1%
5	寝たきりの人やひとり暮らしの高齢者、障がいのある人に対する在宅福祉サービスの向上	690	59.1%
6	情報提供や身近な相談体制の充実	358	30.7%
7	その他	26	2.2%
	無回答	39	3.3%

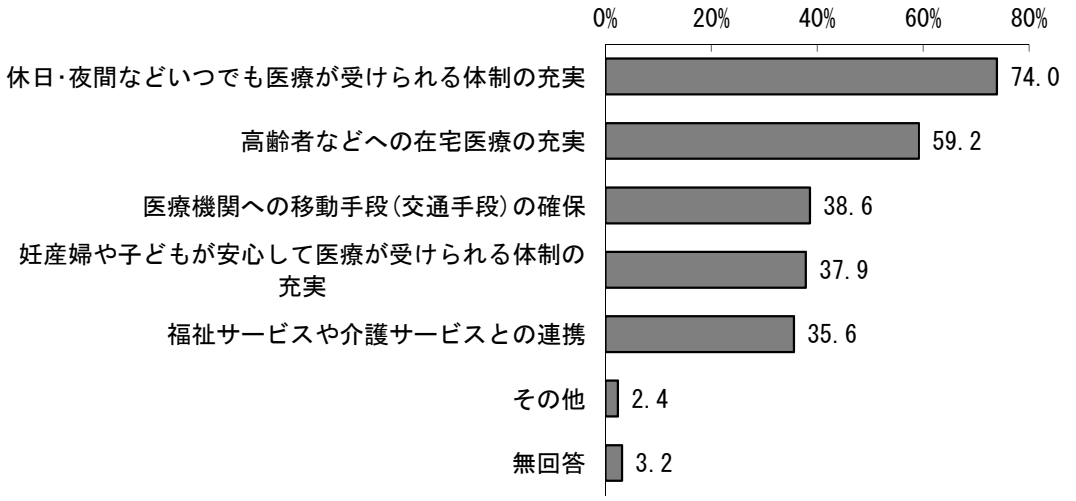
※NPO：「非営利団体」のこと。さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配すること（利益の追求）を目的としない団体。

（９）今後の医療に関しての取り組みで重要なこと

問　あなたは、今後５年間の「医療」に関して、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 ３つまでに○ 】

○ 今後の医療に関しての取り組みで重要なことは、「休日･夜間などいつでも医療が受けられる体制の充実」が 74.0%と最も多くなっています。次いで「高齢者などへの在宅医療の充実」が 59.2%、「医療機関への移動手段（交通手段）の確保」が 38.6%となっています。

図表　今後の医療に関しての取り組みで重要なこと　　n=1167



(n=1167)

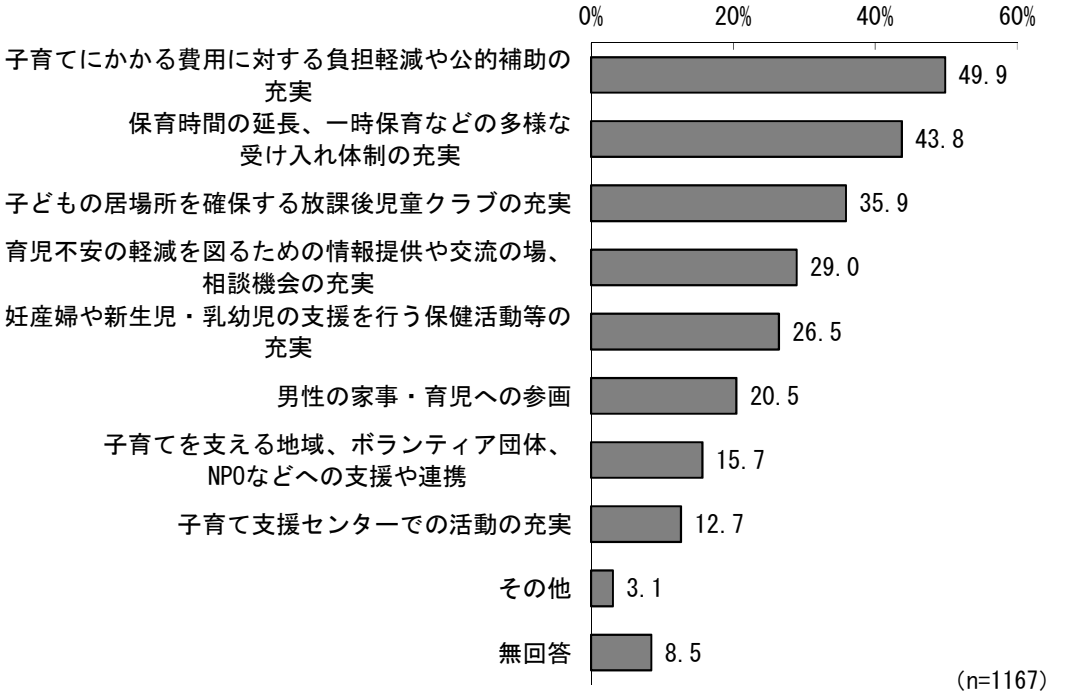
		回答数	構成比
1	高齢者などへの在宅医療の充実	691	59.2%
2	妊産婦や子どもが安心して医療が受けられる体制の充実	442	37.9%
3	休日･夜間などいつでも医療が受けられる体制の充実	863	74.0%
4	福祉サービスや介護サービスとの連携	416	35.6%
5	医療機関への移動手段（交通手段）の確保	451	38.6%
6	その他	28	2.4%
	無回答	37	3.2%

（10）今後の子育て支援に関しての取り組みで重要なこと

問　あなたは、今後 5 年間の「子育て支援」に関して、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 3 つまでに○ 】

○ 今後の子育て支援に関しての取り組みで重要なことは、「子育てにかかる費用に対する負担軽減や公的補助の充実」が 49.9%と最も多くなっています。次いで「保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ体制の充実」が 43.8%、「子どもの居場所を確保する放課後児童クラブの充実」が 35.9%となっています。

図表　今後の子育て支援に関しての取り組みで重要なこと　　n=1167



(n=1167)

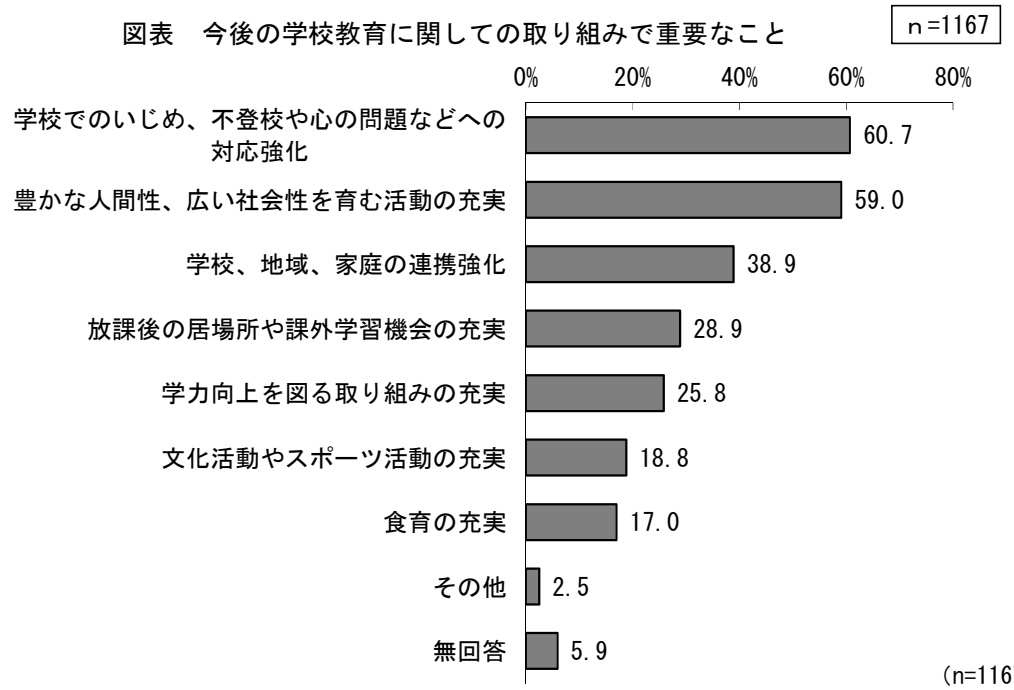
		回答数	構成比
1	妊産婦や新生児・乳幼児の支援を行う保健活動等の充実	309	26.5%
2	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ体制の充実	511	43.8%
3	子育てを支える地域、ボランティア団体、NPO などへの支援や連携	183	15.7%
4	育児不安の軽減を図るための情報提供や交流の場、相談機会の充実	338	29.0%
5	子育てにかかる費用に対する負担軽減や公的補助の充実	582	49.9%
6	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブの充実	419	35.9%
7	子育て支援センターでの活動の充実	148	12.7%
8	男性の家事・育児への参画	239	20.5%
9	その他	36	3.1%
	無回答	99	8.5%

（11）今後の学校教育に関しての取り組みで重要なこと

問　あなたは、今後 5 年間の「学校教育」に関して、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 3 つまでに○ 】

○ 今後の学校教育に関しての取り組みで重要なことは、「学校でのいじめ、不登校や心の問題などへの対応強化」が 60.7%と最も多くなっています。次いで「豊かな人間性、広い社会性を育む活動の充実」が 59.0%、「学校、地域、家庭の連携強化」が 38.9%となっています。

図表　今後の学校教育に関しての取り組みで重要なこと



（n=1167）

		回答数	構成比
1	豊かな人間性、広い社会性を育む活動の充実	689	59.0%
2	学力向上を図る取り組みの充実	301	25.8%
3	学校、地域、家庭の連携強化	454	38.9%
4	学校でのいじめ、不登校や心の問題などへの対応強化	708	60.7%
5	放課後の居場所や課外学習機会の充実	337	28.9%
6	文化活動やスポーツ活動の充実	219	18.8%
7	※食育の充実	198	17.0%
8	その他	29	2.5%
	無回答	69	5.9%

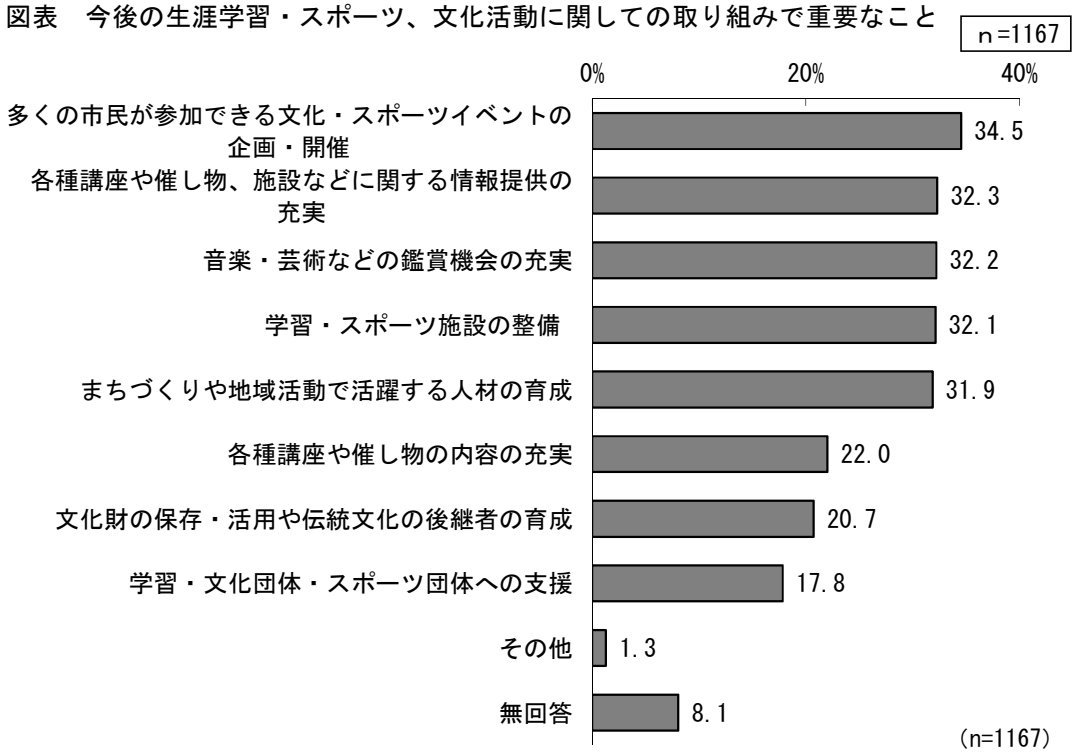
※食育：さまざまな経験を通じて、「食」に関する知識と、バランスのよい「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育むこと。

（12）今後の生涯学習・スポーツ、文化活動に関しての取り組みで重要なこと

問　あなたは、今後 5 年間の「生涯学習・スポーツ、文化活動」に関して、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 3 つまでに○ 】

○ 今後の生涯学習・スポーツ、文化活動に関しての取り組みで重要なことは、「多くの市民が参加できる文化・スポーツイベントの企画・開催」が 34.5%と最も多くなっています。次いで「各種講座や催し物、施設などに関する情報提供の充実」が 32.3%、「音楽・芸術などの鑑賞機会の充実」が 32.2%となっています。

図表　今後の生涯学習・スポーツ、文化活動に関しての取り組みで重要なこと



		回答数	構成比
1	各種講座や催し物、施設などに関する情報提供の充実	377	32.3%
2	音楽・芸術などの鑑賞機会の充実	376	32.2%
3	多くの市民が参加できる文化・スポーツイベントの企画・開催	403	34.5%
4	各種講座や催し物の内容の充実	257	22.0%
5	文化財の保存・活用や伝統文化の後継者の育成	242	20.7%
6	学習・文化団体・スポーツ団体への支援	208	17.8%
7	学習・スポーツ施設の整備	375	32.1%
8	まちづくりや地域活動で活躍する人材の育成	372	31.9%
9	その他	15	1.3%
	無回答	94	8.1%

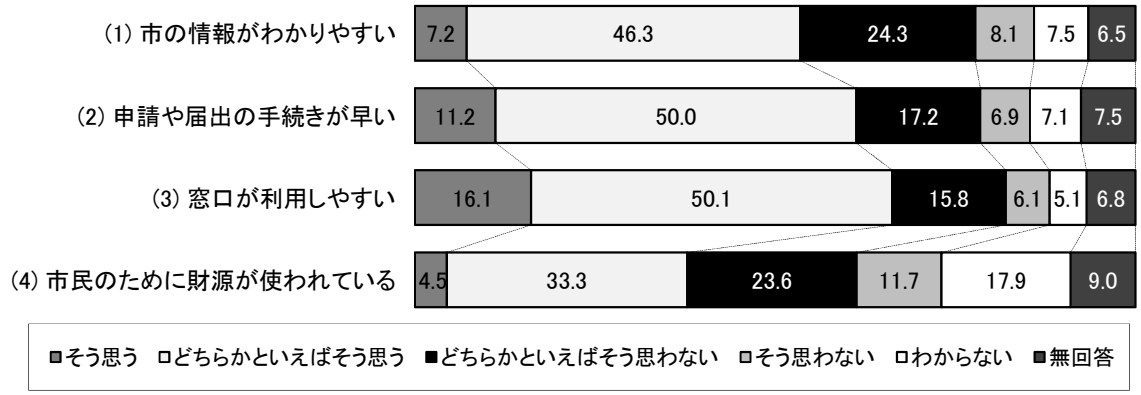
（13）市の行政サービスについて感じていること

問　あなたは、市の行政サービスについてどのように感じていますか。【 各項目、あてはまるもの１つに○ 】

○ 市の行政サービスについて感じていることは、全体として「どちらかと言えばそう思う」が多くなっています。

○ すべての項目のなかで、「そう思う」と回答した割合が最も高いのは「窓口が利用しやすい」で 16.1%、「そう思わない」と回答した割合が最も高いのは「市民のために財源が使われている」で 11.7%となっています。

図表　市の行政サービスについて感じていること



（n=1167）

		回答数	構成比
(1)　市の情報がわかりやすい	1　そう思う	84	7.2%
	2　どちらかといえばそう思う	540	46.3%
	3　どちらかといえばそう思わない	284	24.3%
	4　そう思わない	95	8.1%
	5　わからない	88	7.5%
	無回答	76	6.5%
(2)　申請や届出の手続きが早い	1　そう思う	131	11.2%
	2　どちらかといえばそう思う	584	50.0%
	3　どちらかといえばそう思わない	201	17.2%
	4　そう思わない	80	6.9%
	5　わからない	83	7.1%
	無回答	88	7.5%
(3)　窓口が利用しやすい	1　そう思う	188	16.1%
	2　どちらかといえばそう思う	585	50.1%
	3　どちらかといえばそう思わない	184	15.8%
	4　そう思わない	71	6.1%
	5　わからない	60	5.1%
	無回答	79	6.8%

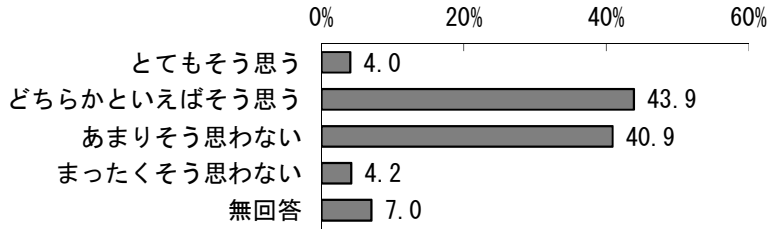
			回答数	構成比
(4) 市民のために財源が使われている	1	そう思う	52	4.5%
	2	どちらかといえばそう思う	389	33.3%
	3	どちらかといえばそう思わない	275	23.6%
	4	そう思わない	137	11.7%
	5	わからない	209	17.9%
		無回答	105	9.0%

(14) 市の行財政運営の情報提供や公開について

問　あなたは、市の行財政運営に関して、情報の提供や公開が十分だと思いますか。
【１つに○】

○ 市の行財政運営の情報提供や公開については、「どちらかといえばそう思う」が43.9%と最も多くなっています。次いで「あまりそう思わない」が40.9%、「まったくそう思わない」が4.2%となっています。

図表　市の行財政運営の情報提供や公開について　n=1167



(n=1167)

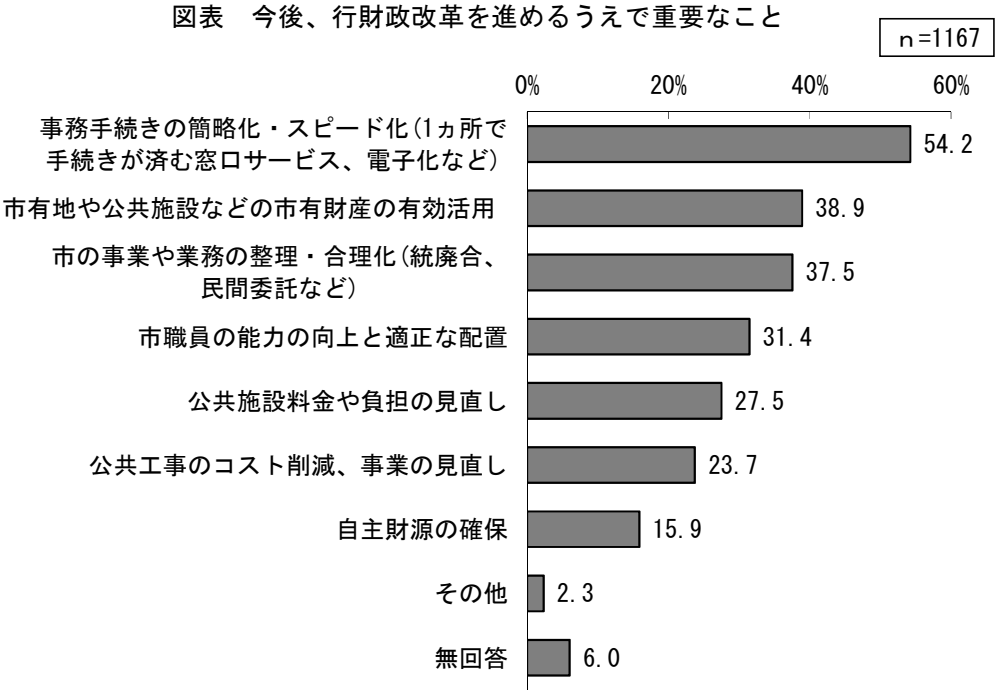
		回答数	構成比
1	とてもそう思う	47	4.0%
2	どちらかといえばそう思う	512	43.9%
3	あまりそう思わない	477	40.9%
4	まったくそう思わない	49	4.2%
	無回答	82	7.0%

（15）今後、行財政改革を進めるうえで重要なこと

問　あなたは、今後 5 年間の「行財政改革」を進めるために、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 3 つまでに○ 】

○ 今後、行財政改革を進めるうえで重要なことは、「事務手続きの簡略化・スピード化（1 ヵ所で手続きが済む窓口サービス、電子化など）」が 54.2%と最も多くなっています。次いで「市有地や公共施設などの市有財産の有効活用」が 38.9%、「市の事業や業務の整理・合理化（統廃合、民間委託など）」が 37.5%となっています。

図表　今後、行財政改革を進めるうえで重要なこと



（n=1167）

		回答数	構成比
1	市の事業や業務の整理・合理化（統廃合、民間委託など）	438	37.5%
2	事務手続きの簡略化・スピード化（1 ヵ所で手続きが済む窓口サービス、電子化など）	633	54.2%
3	市有地や公共施設などの市有財産の有効活用	454	38.9%
4	市職員の能力の向上と適正な配置	367	31.4%
5	公共工事のコスト削減、事業の見直し	277	23.7%
6	公共施設料金や負担の見直し	321	27.5%
7	自主財源の確保	185	15.9%
8	その他	27	2.3%
	無回答	70	6.0%

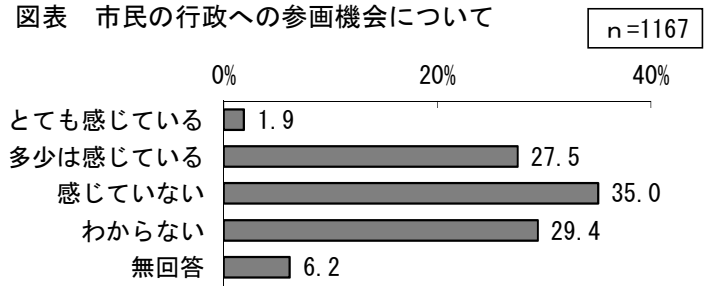
（16）市民の行政への参画機会について

問　あなたは、市民の行政への参画機会が十分であると感じていますか。【 1 つに○ 】

○ 市民の行政への参画機会については、「感じていない」が 35.0%と最も多く、「多少は感じている」は 27.5%、「とても感じている」は 1.9%となっています。

○ 「わからない」と回答した割合は 29.4%となっています。

図表　市民の行政への参画機会について



(n=1167)

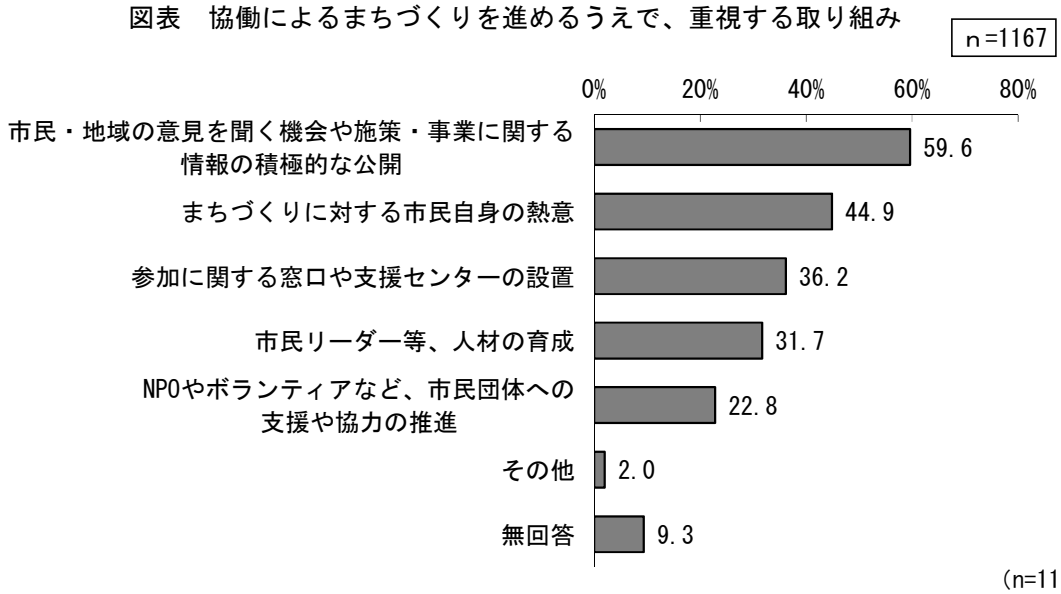
		回答数	構成比
1	とても感じている	22	1.9%
2	多少は感じている	321	27.5%
3	感じていない	409	35.0%
4	わからない	343	29.4%
	無回答	72	6.2%

（17）協働によるまちづくりを進めるうえで、重視する取り組み

問　あなたは、「市民と行政の協働によるまちづくり」を進めるうえで、どのような点を重視した取り組みが必要だと思いますか。【 3 つまでに○ 】

○ 協働によるまちづくりを進めるうえで、重視する取り組みは、「市民・地域の意見を聞く機会や施策・事業に関する情報の積極的な公開」が 59.6%と最も多くなっています。次いで「まちづくりに対する市民自身の熱意」が 44.9%、「参加に関する窓口や支援センターの設置」が 36.2%となっています。

図表　協働によるまちづくりを進めるうえで、重視する取り組み



(n=1167)

		回答数	構成比
1	市民・地域の意見を聞く機会や施策・事業に関する情報の積極的な公開	696	59.6%
2	参加に関する窓口や支援センターの設置	422	36.2%
3	NPO やボランティアなど、市民団体への支援や協力の推進	266	22.8%
4	まちづくりに対する市民自身の熱意	524	44.9%
5	市民リーダー等、人材の育成	370	31.7%
6	その他	23	2.0%
	無回答	109	9.3%

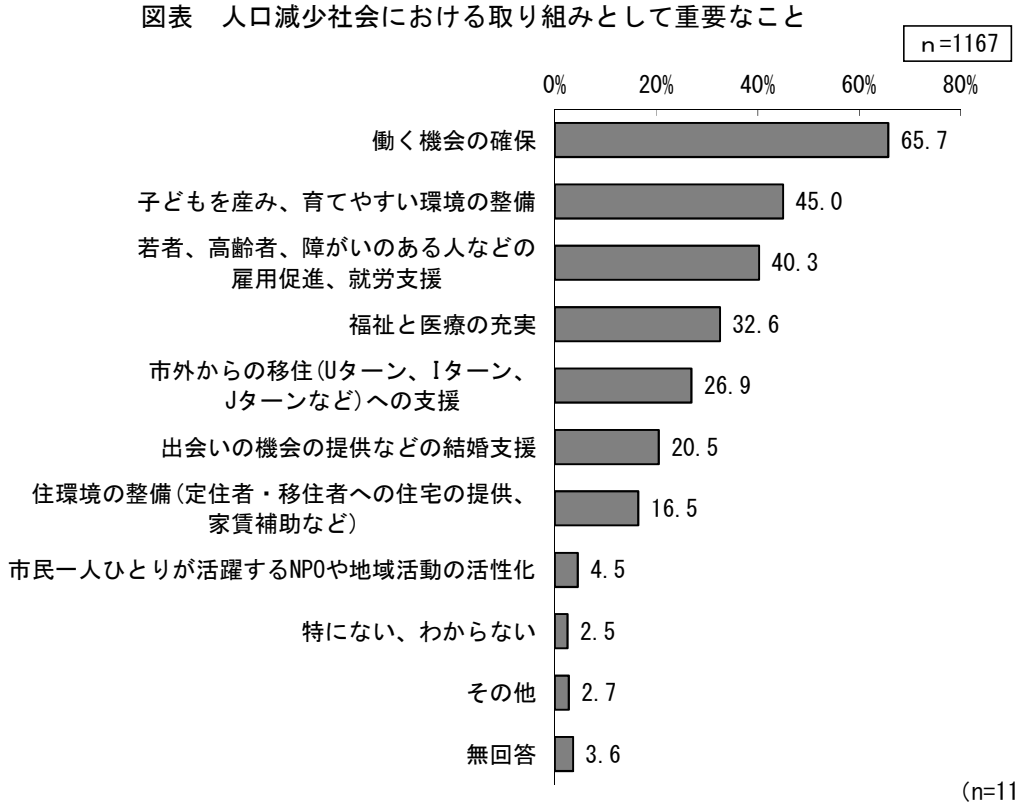
４　人口減少の抑制への取り組みについて

（１）人口減少社会における取り組みとして重要なこと

問　「人口減少社会における取り組み」として、特に重要なことは何だと考えますか。
【 3 つまでに○ 】

○ 人口減少社会における取り組みとして重要なことは、「働く機会の確保」が 65.7%と最も多くなっています。次いで「子どもを産み、育てやすい環境の整備」が 45.0%、「若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援」が 40.3%となっています。

図表　人口減少社会における取り組みとして重要なこと



(n=1167)

		回答数	構成比
1	働く機会の確保	767	65.7%
2	若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援	470	40.3%
3	子どもを産み、育てやすい環境の整備	525	45.0%
4	福祉と医療の充実	380	32.6%
5	住環境の整備（定住者・移住者への住宅の提供、家賃補助など）	192	16.5%
6	市外からの移住（U ターン、I ターン、J ターンなど）への支援	314	26.9%
7	市民一人ひとりが活躍する NPO や地域活動の活性化	53	4.5%
8	出会いの機会の提供などの結婚支援	239	20.5%
9	その他	32	2.7%
10	特にない、わからない	29	2.5%
	無回答	42	3.6%

○ 人口減少社会における取り組みを性別・年齢別にみると、「働く機会の確保」、「子どもを産み、育てやすい環境の整備」、「若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援」が概ね上位に挙がっています。

○ 特に 30 歳代、40 歳代では「福祉と医療の充実」を上位に挙げています。

図表　人口減少社会における取り組みとして重要なこと（性別・年齢別：上位 3 項目）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
男性 (n=430)	働く機会の確保 70.0%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 45.8%	若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援 39.3%
女性 (n=634)	働く機会の確保 62.9%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 45.1%	若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援 42.3%
10･20 歳代 (n=67)	働く機会の確保 67.2%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 65.7%	若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援 41.8%
30 歳代 (n=101)	働く機会の確保 64.4%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 55.4%	福祉と医療の充実 36.6%
40 歳代 (n=139)	働く機会の確保 66.9%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 51.1%	福祉と医療の充実 35.3%
50 歳代 (n=194)	働く機会の確保 68.6%	若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援 51.0%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 39.7%
60 歳代 (n=274)	働く機会の確保 71.9%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 41.6%	若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援 40.9%
70 歳以上 (n=379)	働く機会の確保 60.4%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 41.4%	若者、高齢者、障がいのある人などの雇用促進、就労支援 38.8%

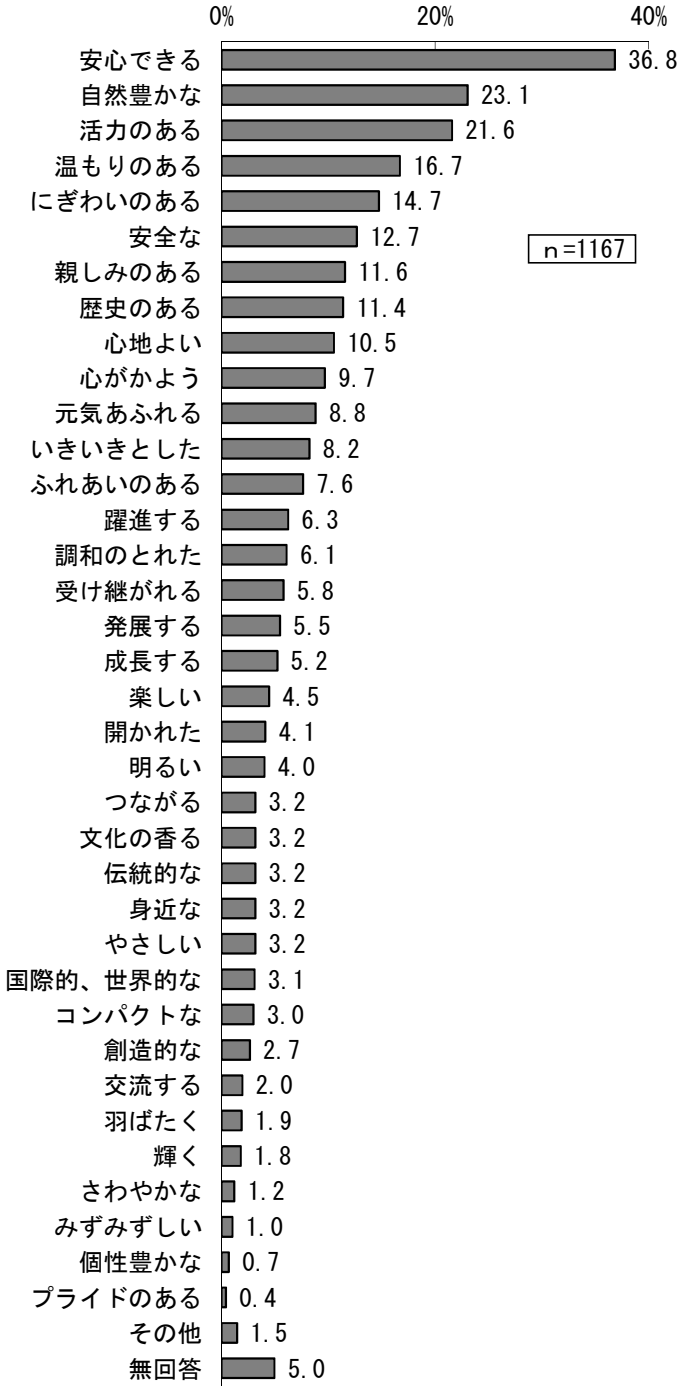
５　島原市のこれらからのまちづくりについて

（１）まちづくりに必要なキーワード

問　あなたは、これからのまちづくりをどのように進めていく必要があると思いますか。次の中からあなたのイメージに近いキーワードを選んでください。【 3 つまでに○ 】

○ まちづくりに必要なキーワードは、「安心できる」が 36.8%と最も多くなっています。次いで「自然豊かな」が 23.1%、「活力のある」が 21.6%となっています。

図表　まちづくりに必要なキーワード



（n=1167）

		回答数	構成比
1	躍進する	73	6.3%
2	成長する	61	5.2%
3	羽ばたく	22	1.9%
4	輝く	21	1.8%
5	元気あふれる	103	8.8%
6	いきいきとした	96	8.2%
7	活力のある	252	21.6%
8	にぎわいのある	172	14.7%
9	開かれた	48	4.1%
10	国際的、世界的な	36	3.1%
11	発展する	64	5.5%
12	交流する	23	2.0%
13	つながる	37	3.2%
14	心がかよう	113	9.7%
15	ふれあいのある	89	7.6%
16	親しみのある	135	11.6%
17	温もりのある	195	16.7%
18	調和のとれた	71	6.1%
19	受け継がれる	68	5.8%
20	歴史のある	133	11.4%
21	文化の香る	37	3.2%
22	自然豊かな	269	23.1%
23	個性豊かな	8	0.7%
24	プライドのある	5	0.4%
25	創造的な	31	2.7%
26	伝統的な	37	3.2%
27	コンパクトな	35	3.0%
28	身近な	37	3.2%
29	さわやかな	14	1.2%
30	心地よい	123	10.5%
31	みずみずしい	12	1.0%
32	やさしい	37	3.2%
33	安心できる	430	36.8%
34	安全な	148	12.7%
35	明るい	47	4.0%
36	楽しい	52	4.5%
37	その他	17	1.5%
	無回答	58	5.0%

（２）新しい計画のスローガン(標語・キャッチフレーズ)

問　現在の市勢振興計画のスローガンは「有明海にひらく湧水あふれる 火山と歴史の田園都市 島原」ですが、新しい計画のスローガンを、簡単な標語やキャッチフレーズで表現するとしたら、どのようなものが考えられますか。お考えがありましたら、ご自由にご記入ください。

図表　新しい計画のスローガン

キーワード	主な意見
安心できる・安全な	・安心できる安全な明るい島原市 ・未来ある島原、安心できる町 ・私の故郷、私が守ります　安心と安全の島原 ・安全で活力ある島原
自然豊かな	・島原の自然豊かな湧水の恵み城下町 ・豊富な水と自然豊かで緑が多い街 ・自然が美味しい、まぶしい、楽しい ・自然豊かな元気あふれる歴史と文化の島原 ・自然豊か、文化と歴史のかおり、スローライフしまばら ・自然と活力あふれる町島原 ・豊かな自然と心で満たそう島原 ・自然文化財と産業躍進の両立都市　島原 ・山と海に囲まれた自然たっぷり（沢山）の島原 ・自然豊かな　元気あふれる　明るい　まち　島原 ・自然豊かな温もりのある歴史の町島原 ・四季折々の自然と歴史と文化に満ちた水の都島原 ・山と海を一望できる　自然都市　島原 ・自然豊かで水がきれいな町島原 ・自然豊かな湧水あふれる　温もりある歴史の田園都市島原 ・豊かな水で豊かな心を育み　火山の記憶と田園都市を次世代へ ・自然歴史のある島原 ・緑と海に恵まれた清き湧水、歴史から望む火山の島原 ・雲仙と有明海に育まれた湧水と歴史の香る町島原 ・山と海に恵まれた湧水あふれる歴史ある城下町　島原 ・きれいな水、海、空がうまい市　島原！
活力のある・にぎわいのある・心がかよう	・活力のある、心の通う安全な島原 ・若さにあふれた、活気ある「若者が住みたくなる」街島原 ・活気あふれる城下町島原 ・活気に溢れた心通う水の都　島原 ・活気あふれる、歴史深い町島原 ・変革をおそれず挑戦　活気みなぎる元気な都市　しまばら（ん） ・人と人とが心を通わせ、ご縁の糸を織り紡ぐ、鯉の泳ぐ水の都、島原！

キーワード	主な意見
温もりのある・親しみのある・心地よい	・人と人とがつながる　温もりのある　自然豊かな島原 ・心地よい温もりあふれる島原！ ・みんなが心やすらぐ平和都市 ・温かな人情、自然そして歴史が語る城下町　島原 ・あたたかい心のかようふるさとの町、島原 ・ずっといたくなる　素敵な温かい街　島原 ・湧水あふれる　やさしい　島原 ・人にやさしいまち、住みやすいまち島原 ・あの人もこの人も笑顔あふれる島原市 ・みんながいきいきほっこりえがお
歴史のある	・有明海と火山のめぐみあふれる歴史の街　島原 ・水々しい未来へ、歴史ある島原 ・歴史と伝統に充ちた安心安全で住みたくなる島原市 ・歴史感があふれ、人情味感じる島原 ・古き良き日本と自然、歴史を感じられる街へ ・有明海を臨む、歴史と湧水の町島原 ・清々しく溢れるほどの湧き水と歴史と共に生きてゆく　今こそおもてなし　ＳＨＩＭＡＢＡＲＡ ・歴史と自然が調和するまち島原 ・歴史のある、調和のとれた、発展する「島原」 ・湧水と歴史あふれる観光都市島原 ・未来へつながる　世界へつながる　歴史ロマンと自然豊かな水都・島原 ・歴史・文化の香る自然豊かな水上都市、島原 ・湧き上がる水のごとく　受け継がれる歴史の街“島原” ・火山と歴史の田園都市元気あふれるいきいき島原
その他	・やっちゃ島原！！ ・雲仙、有明海、名水おいしか　食の都市島原 ・心躍る島原！！ ・ＯＫ．シマバラ！海、山、水 ・行ってよかとこ見てよかとこ住んでよかとこ島原　湧き水溢れる緑の町島原

（3）まちづくりへの意見・提案

問　次の 1～7 項目について、島原市で「こんな取り組みはできないか」「こんなところが改善できたらいい」などのご意見・ご提案を記入してください。
【 3 つまで選んで意見等を記入 】

○ まちづくりへの意見・提案の件数は以下の通りです。

図表　まちづくりへの意見・提案

		件数
1	生活環境・道路交通基盤に関すること	250
2	産業振興や地域の活性化に関すること	187
3	保健・福祉・医療に関すること	161
4	教育や文化に関すること	111
5	行政・財政に関すること	45
6	官民協働のまちづくりに関すること	28
7	その他（1～6 以外に関すること）	89

①　生活環境・道路交通基盤に関すること

図表　生活環境・道路交通基盤に関すること

テーマ	主な意見
道路・橋梁整備	・高速道路があったらいいと思います。熊本と島原をつなぐ橋が出来て、車で気軽に行けたらいいなと思います。 ・舗装されてない市道を舗装してほしい。舗装してある所もでこぼこになっている。 ・島原道路が早く完成してほしい。
交通・アクセス	・市内を巡回するコミュニティバス路線の充実（免許証が返納できない）。 ・高齢者向けに、買い物、通院等に利用できる移動手段を確保して頂きたい。 ・交通機関、バスのダイヤを増やして欲しい。どこにでもバス停が欲しい。路線バスを増やして欲しい。 ・フェリーの本数増加。
生活環境	・ゴミステーションの設置をすすめてほしい。 ・下水道を作る計画はまだありませんか。 ・市内にある小さな公園（近所の住人が歩いて行くような）の整備に力を入れてほしい。雑草や遊具のメンテナンスなど。
空き地・空き家	・空き家空き地が目立ち、持ち主が不明の所は荒れ放題、雑草だらけで見苦しいし、害虫や蛇がいて気持ち悪いです。市で対処出来ないでしょうか。 ・空き家対策、便利な土地ほどたくさん空き家がある。 ・空き家等の住めそうな家を低額もしくは無償で、住居に困っている方へ提供してほしい。

②　産業振興や地域の活性化に関すること

図表　産業振興や地域の活性化に関すること

テーマ	主な意見
雇用	・若い人達が市外に出ていかないで良いような働く場所を創り出し、納税者を増やせるようにしよう。 ・学校卒業後の就職先の確保。Ｕターン者の為の仕事の確保。
企業等誘致	・企業を誘致してほしい。 ・大学、専門学校誘致。
観光	・レトロ感を前面に出した観光づくり（ストーリー性を持たせる）。 ・温泉リゾートの設立を。市民が一日をゆっくり過ごせる温泉センターのような施設で観光のお客様も立ち寄って温泉を楽しめる又はそこの施設を目的に遊びに島原へ行こうと思えるものを。 ・雲仙のサンクスフェスみたいにインバウンドをねらった本格的なイベントをすることで、島原のイメージが変わり若者層をとり込むことにより、自動的にその若者からＳＮＳ等で島原の魅力を発信してくれると思います。
農業	・農業が盛んな島原市での新規農業者や農業者が今以上に活躍できるような補助金制度を作ってほしい。もしくは税金を減らしてほしい。 ・農産物をもっとＰＲしてほしいです。島原にはおいしい野菜、果物などたくさんあるので。 ・島原地区の農業を会社組織にして働きやすいようにする。農業関係を活性化させる。近い将来は無人トラクターやドローン等（自動運転）ハイテク機器を利用する。
商業施設	・大型商業施設もしくは若者向けの店舗の誘致など行えば、島原へ来る人や、居住者が増えるのではないでしょうか。 ・昔から商店街が廃れる等の理由で大型複合施設に反対との話はおかしいと思う。休日に家族で遊びに行けるレジャー施設がないので市外や県外にいくのであり、若者も離れていくと思う。
アーケード	・にぎわいを創出するため、商店街アーケードの空き店舗を利用して「屋台村」スペースを整備し、手頃な価格で出店テナントを募集する。 ・アーケードなどお店を見たいけど、駐車場がなく、無料の駐車場を作ってほしい。
ブランド化	・島原に来ないと食べられない物とか、買って帰りたいおいしい物があるとなれば、少々遠くても人は集まると思うので、農産物を活かした加工品などをさらに開発しては、と思います。 ・食のブランドを作る。長崎のラブフェスなど島原バージョン、食のフェスなど大きな特産品フェスなど、物産のアピール。おいしい食べ物があるのにもったいない。

③　保健・福祉・医療に関すること

図表　保健・福祉・医療に関すること

テーマ	主な意見
医療	・小児医療の充実。 ・小児科が市内に２ヶ所しかない。子供の夜間診療も平日はないので、改善してほしい。 ・救急の体整を充実させてほしい。 ・不妊治療をもっと充実させてほしい。
障がい者	・障がい者にやさしい町づくり。

テーマ	主な意見
	・個人情報保護法に捉われすぎて、色々な障がい者の情報がボランティア活動する各種サークルへ充分に提供されず、活動の成果が反映され難くなっている。ボランティアサークル及びＮＰＯ間の支援・協力・連携を充実すると、活動内容がもっと向上すると思う。
移動手段	・小型バスなどをすべての町内でも通して買い物などの助けをして欲しい。年を重ねると歩いて買い物に行けなくなります。 ・バリアフリーの充実。車椅子用トイレを増やす。段差の軽減など。
高齢者	・高齢者のみの世帯となり自立困難となった時、安心して生活出来る介護付高齢者住宅等の充実が出来ないか。 ・家庭で生活出来ない人が心配なくて入所出る所を増えたらいいなと思う。
健康づくり	・健康作りの講座とか、参加ポイントを作って、健康保険を使わない人に特典をつけて楽しく健康づくりを。

④　教育や文化に関すること

図表　教育や文化に関すること

テーマ	主な意見
学校教育	・お金がないという事で卒業生の記念品や夏休みのプールがカットされたりしているので姉妹都市への中学生の訪問などをやめて市内の子供達に支援してほしい。 ・大学、短大、専門学校等の誘致。 ・大学等の新設は難しいでしょうが、既存大学の島原分校の類を誘致できれば、多方面の活性化に繋がると思います。 ・世界ジオパークを生かした小、中、高校まで一貫した教育の充実（例）小６で学ぶ地層や大地、生物と環境の分野を大学のゼミのようにテーマを各自（各グループ）で決めて、そのテーマに沿って研究発表をできるように一年間取り組ませる。理科好きな子どもを多く育ててほしい。
部活動	・小学校の部活動の種目を増やし、子ども達が色んな種目から選べる環境が出来たらいいなと思う。自分達で選ぶ事により意欲も沸き、向上していくかもしれない。有名な選手になると、市の宣伝活性化に繋がるのではないかと思う。小学校の六年間は大切だと思う。 ・中学校の部活動の在り方（休日の日の活動時間や活動内容等）が適切かどうか、外部指導者や保護者のサポートの在り方を考えていく必要があるように感じられる。
歴史・自然等文化活動	・島原南高地域の古代から現代までの歴史を調査し、全市民に配布する企画をしてはどうでしょう。歴史ある町づくりに役立つと思います。 ・ジオパーク検定を小学生向けにつくり、小学生に島原のことを深く知ってもらい、地元愛を深めるきっかけにしてほしい。 ・地域の伝統芸能の継承のために学校・教育委員会・自治会等で協力し、夏休みを活用しながら練習して学校行事や文化祭・盆踊りで発表する機会を作る。必要経費の一部を市の補助を期待（ふるさと納税）。 ・講演会や文化活動に触れる機会を増やし、それを周知し、気軽に参加できるようになったらいいです。 ・出張学習の推進と充実。
子育て	・各学校（小学校）の学童保育の設置。 ・子供が安心して遊べる場所（自然の中で）があればいいのになあと思う。（ゲームや習い事等で家の回りで（外で）遊んでいる子供がいない）。
文化施設	・図書館の拡充（施設、蔵書ともに）。 ・島原図書館と大村、諫早図書館をシステム統合して図書融通する。 ・市営住宅や保育園等を中心に週１回巡回する移動図書館車の配備はできないか。 ・財政面もあるでしょうが、美術館が欲しいです。

⑤　行政・財政に関すること

図表　行政・財政に関すること

テーマ	主な意見
政策・まちづくり	・市の施策、政策等、議会内容も含め更なる市民レベルへの周知徹底。
事務の効率化	・職員が多いと思う。もっと効率的な仕事をすべき。 ・民間でできることはドンドン民間へ。民間でできないことは行政で。 ・既存の組織の再編成。組織があり、会議がありますが例年通り消化しているだけのようです。何が必要かシンプルに考えてはどうでしょうか。
行政サービス	・相談機関の充実。 ・土日開庁があるのならば、早期開庁はなくてもよいように思います。市民サービスという気持ちももちろん理解できるのですが、どちらかに絞り、その分の予算を他事業へあて充実させた方がよいのではないかと考えます。

⑥　官民協働のまちづくりに関すること

図表　官民協働のまちづくりに関すること

テーマ	主な意見
市民との話合う機会	・街の商店主と役所の人でもっと話し合って島原らしい商品を創り名物を増やしてほしい。
参加しやすい機会	・「市長を囲む懇談会」に過去数回参加したが（白山地区）、せっかく市長や諸課長等が時間をつくって来ているのに、市民の数が余りにも少なく、それも各町内会長や役員さんらしき人ばかりで、いわゆる一般市民の出席が見られない事が残念。何年も続いている割には、この機会が活かされてない気がします。
企画・立案	・行政が提案する内容を検討するとき、地域の代表を入れる。特に将来のある若者。各世代の考えを取り入れるシステム作りが出来ないかと思います。

第６次島原市市勢振興計画

後期基本計画　施策評価報告書

－成果指標の進捗状況と施策実施状況－

平成３０年１１月

目　　次

１　後期基本計画の施策評価にあたって 1
（１）施策評価の目的 1
（２）施策評価の対象 1
（３）施策評価の方法 1
（４）施策評価の結果 2
２　成果指標一覧 3
３　各施策の進捗について 6
基本指針１　機能が充実した都市をつくる 6
施策１−１　コンパクトシティを目指した土地利用と市街地整備 6
施策１−２　上水道環境の整備と水資源の保全 6
施策１−３　生活排水処理施設の整備 6
基本指針２　地域内外との交流に必要な基盤をつくる 7
施策２−１　道路の整備 7
施策２−２　公共交通の整備 7
施策２−３　情報・通信の整備 7
基本指針３　豊かな自然と暮らしを守る 8
施策３−１　環境対策の推進 8
施策３−２　山林の保全 8
基本指針４　安全・安心と安らぎの環境を整える 9
施策４−１　公園・緑地の整備・維持・管理 9
施策４−２　リサイクル環境の整備 9
施策４−３　住環境の整備 9
施策４−４　消防・防災の推進 9
施策４−５　交通安全・防犯の推進 10
施策４−６　河川・海岸・砂防等の整備 10
基本指針５　「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる 11
施策５−１　農林業の振興 11
施策５−２　水産業の振興 11
施策５−３　商工業の振興 12
施策５−４　観光業の振興 12
施策５−５　企業誘致及び新規起業・就業の支援 12

基本指針６　地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する 13
施策６−１　地域ブランドの確立 13
施策６−２　交流活動の推進 13
施策６−３　交流基盤の整備 13
基本指針７　生きる力と創造力を持った人を育てる 14
施策７−１　就学前教育の充実 14
施策７−２　義務教育の充実 14
施策７−３　高等教育の充実 14
施策７−４　生涯学習の充実 15
施策７−５　文化活動の充実 15
施策７−６　スポーツの充実 15
基本指針８　健康で生きがいある生活を支える 16
施策８−１　保健・医療の更なる充実 16
施策８−２　国民健康保険・国民年金制度の充実 16
施策８−３　高齢者福祉の充実 17
施策８−４　子育て支援の充実 17
施策８−５　障害者福祉の充実 17
施策８−６　低所得者福祉の充実 17
施策８−７　消費者教育・支援の充実 18
施策８−８　社会福祉の充実 18
基本指針９　自立した地域コミュニティづくりを支援する 19
施策９−１　コミュニティ活動の活性化 19
施策９−２　人権教育と男女共同参画の推進 19
基本指針 10　市民に開かれた行政を運営する..... 20
基本指針 11　持続的発展を目指した健全な財政を運営する..... 20
基本指針 12　広域的な地域づくりを促進する..... 21

１　後期基本計画の施策評価にあたって

（１）施策評価の目的

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間を計画期間とする第 6 次島原市市勢振興計画後期基本計画は、残り 1 年間という時期を迎えます。

この間、まちの将来像である「有明海にひらく湧水あふれる火山と歴史の田園都市　島原」の実現のために展開してきた後期基本計画の各施策にを推進してきました。

そこで、後期基本計画の結果や成果の状況を明らかにし、当初の目標に対してどの程度の成果が得られたのか。そして、新たな第 7 次島原市市勢振興計画で取り組むべき課題や方向性を検討するために評価を行いました。

（２）施策評価の対象

本報告書において評価を行う対象は以下のとおりです。

● 後期基本計画に掲げられている各個別施策及び当該施策に関連する事業

（例）

基本指針（章）「機能が充実した都市をつくる」

施　策（節）「1-1　コンパクトシティを目指した土地利用と市街地整備」

個別施策「①地籍調査事業（重点事業）」　等

（個別施策における成果指標）

（３）施策評価の方法

各施策の事業評価シートにより、主な取り組みと成果、課題・今後の方向性を整理するほか、成果指標については、次の評価基準で評価します。

図表　成果指標の評価基準

達成率	達成状況	評価
100%以上	目標値に達成した	A
70%以上 100%未満	目標値に概ね達成した	B
40%以上 70%未満	半分程度の達成状況である	C
10%以上 40%未満	あまり達成されていない	D
10%未満	ほとんど達成されていない	E
－	評価不能	－

（４）施策評価の結果

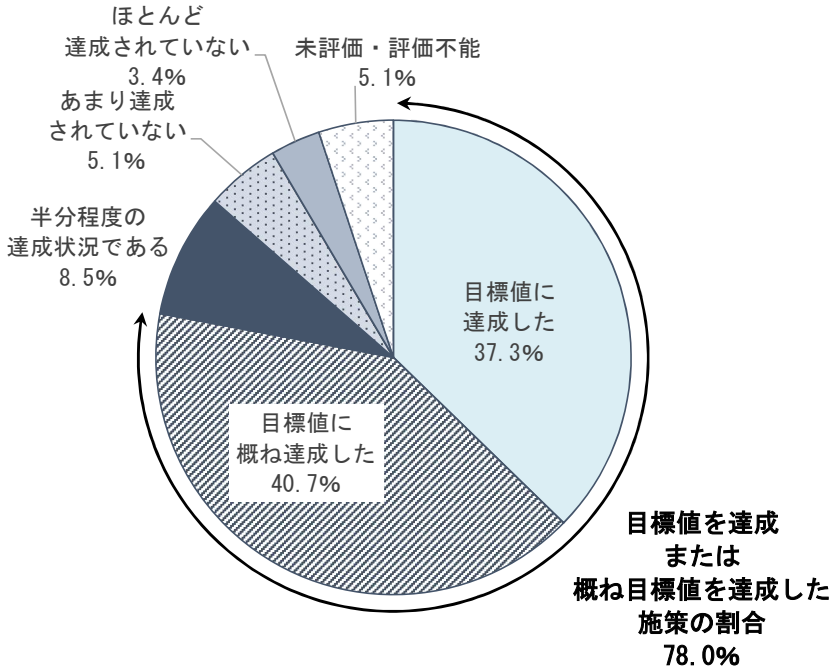
評価を行った 59 の成果指標のうち「評価 A」が 22 指標（37.3%）、「評価 B」が 24 指標（40.7%）、「評価 C」が 5 指標（8.5%）、「評価 D」が 3 指標（5.1%）、「評価 E」が 2 指標（3.4%）、「未評価・評価不能」は 3 指標（5.1%）となっています。

そのうち「評価 A」及び「評価 B」となった施策は 46 指標あり、施策分野（基本指針）に偏りなく概ね目標に向けた施策推進が図られているとみられます。

■　総括（12の基本指針）による評価分析

図表　総括（5 つの基本指針）による評価

成果指標数	達成率	評価	指標数	割合（%）
59	100%以上	A	22	37.3
	70%以上100%未満	B	24	40,7
	40%以上70%未満	C	5	8.5
	10%以上40%未満	D	3	5.1
	10%未満	E	2	3.4
	未評価・評価不能	―	3	5.1



２　成果指標一覧

基本指針１　機能が充実した都市をつくる

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	調査進捗率	%	46.1	52.8	49.0	92.8	B
2	道路美装化実績	㎡	4,811	4,912	4,912	100.0	A
3	有収率	%	74.4	80.0	76.4	95.5	B
4	配水管更新率	%	69.2	85.0	74.2	87.3	B
5	汚水処理人口普及率	%	40.2	61.0	43.1	70.7	B

基本指針２　地域内外との交流に必要な基盤をつくる

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	都市計画道路整備計画の進捗率	%	67.3	84.0	83.1	98.9	B
2	市道改良率	%	52.60	55.0	52.9	96.2	B
3	島原鉄道の利用者数	千人/年	1,509	1,500	1,351	90.1	B
4	島原港の乗降客数	千人/年	722	750	568	75.7	B
5	各種申請・届出や公共施設の予約等における電子システムの導入・整備	－	一部導入済	導入	一部導入済	－	－

基本指針３　豊かな自然と暮らしを守る

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	硝酸性窒素等の濃度の環境基準超過率	%	64.7	50.0%以下	41.4	100.0	A

基本指針４　安全・安心と安らぎの環境を整える

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	都市計画区域人口一人当たり都市公園面積	㎡	12.88	13.00	13.30	102.3	A
2	年間ごみ排出量	トン	20,342	17,386	19,394	89.6	B
3	総資源化量	トン	4,308	4,400	3,863	87.8	B
4	ごみの資源化率	%	21.2	25.2	19.9	79.0	B
5	耐用年限1/2を越える住宅	戸	397	417	415	99.5	B
6	年間火災発生件数	件	14	0	14	0.0	E
7	年間の防災訓練参加者数	人	743	1,464より増	1,750	100.0	A
8	交通事故件数	件	207	平成26年度末より減	171件	100.0	A
9	刑法犯認知件数	件	225	平成26年度末より減	163件	100.0	A

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
10	海岸保全進捗率	%	62.7	80.0	62.7	78.4	B

基本指針５　「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	農地集積率	%	69.0	78.0	74.5	95.5	B
2	大根の生産量	トン	34,900	35,700	32,000	89.6	B
3	人参の生産量	トン	19,140	19,420	18,370	94.6	B
4	白菜の生産量	トン	12,600	13,000	12,300	94.6	B
5	生産性(耕地10aあたり生産農業所得	万円	25.1	25.5	39.3	154.1	A
6	主要品目の算出額(肉用牛・乳用牛・豚・採卵鶏)	億円	75.3	77.3	72.2	93.4	B
7	体験型農業参加者数	人	1,999	2,500	804	32.2	D
8	養殖技術の開発・事業化取り組み件数	件	0	1	0	0.0	E
9	漁業経営体数	経営体	222	200	222	111.0	A
10	島原市内商店街会員数	店	181	189	173	91.5	B
11	年間観光入り込み客数	人	1,317,128	2,000,000	1,370,121	68.5	C
12	年間宿泊客数	人	198,538	250,000	216,377	86.6	B
13	島原観光ボランティアガイド数	人	16	50	18	36.0	D
14	スポーツコンベンション開催数（※）	回	11	15	12	80.0	B

※延べ宿泊数が500人以上のスポーツの大会

基本指針６　地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	ブランド化取り組み件数	件	8	10	21	210.0	A
2	特産品の創出件数（累計）	件	18	－	21	100.0	A
3	全国・九州規模大会開催(スポーツ交流)	回	11	6	11	183.3	A

基本指針７　生きる力と創造力を持った人を育てる

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	耐震補強工事実施済み率（実施校数/必要校数）	%	100.0	100.0	100.0	100.0	A
2	小・中学校体育館の非構造部材の耐震化実施済み率（実施校数／必要校数）	%	50.0	100.0	100.0	100.0	A
3	ALTの人数	人	4人	5	5	100.0	A
4	各種生涯学習講座参加者数	人	15,861人	18,000	10,974	61.0	C
5	出前講座開催	回/年	28	50	24	48.0	C
6	国登録文化財の数	件	31	35	36	102.9	A
7	市内の指定文化財の数	件	91	95	94	98.9	B

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
8	総合型地域スポーツクラブ設置数	ヶ所	1	2	1	50.0	C
9	各種スポーツ大会等（市・各地区主催）参加者	人	17,279	17,000	18,207	107.1	A

基本指針８　健康で生きがいある生活を支える

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	国保被保険者の特定健康診査の受診率	%	45.7	60.0	47.4	79.0	B
2	自立している高齢者の割合（介護保険非認定者数）	%	77.6	78.0	78.0	100.0	A
3	休日保育対応保育所数	ヶ所	2	7	1	14.3	D
4	消費者相談解決率	%	82.90	90.00	100.0	111.1	A

基本指針９　自立した地域コミュニティづくりを支援する

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	町内会・自治会加入率	%	72.4	81.0	68.4	84.4	B
2	「男女共同参画社会」という言葉の認知度	%	57.0	90.0	未調査	－	－

基本指針 10　市民に開かれた行政を運営する

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	情報公開室閲覧者数	件	50	200	92	46.0	C

基本指針 11　持続的発展を目指した健全な財政を運営する

No	指　　標	単位	平成26年度末の数値	目標値	実績（見込）	達成率	評価
1	職員の定員数	人	388	389	368	105.7	A
2	経常収支比率	%	93.2	計画策定時の数値よりも低くし、類似団体の数値に近づける	90.7	－	－
3	実質公債費比率	%	5.4	計画策定時の水準を維持	3.9	100.0	A
4	職員施策提案制度の提案件数	件/年平均	27	8	28	350.0	A
5	自主財源比率	%	29.8	計画策定時の数値よりも高くする	30.4	100.0	A

３　各施策の進捗について

基本指針１　機能が充実した都市をつくる

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　コンパクトシティへ向けた取り組みについては、都市計画マスタープランの見直し等を行いながら、検討を進めています。

◎　上下水道、生活排水処理については、環境にやさしい衛生的な生活環境を目指して、し尿処理を処理や計画的な上水道整備を実施しています。

施策１－１　コンパクトシティを目指した土地利用と市街地整備

● コンパクトシティを目指した土地利用と市街地整備に向けて、地籍調査を計画的に実施したほか、平成 28 年 1 月に島原都市計画マスタープランを見直し、平成 30 年 6 月には、都市計画道路新山本町線及び、霊南山ノ神線沿線の用途地域の見直しを行いました。

● 国土利用計画の策定については未実施、外港地区見直し、中央第一地区見直しについては、社会情勢の変化や雲仙普賢岳噴火災害に伴う緊急避難道の整備などにより、事業を廃止しています。

施策１－２　上水道環境の整備と水資源の保全

● 老朽化した配水管、又は漏水が多い配水管を優先に布設替工事を実施したほか、市民への情報提供として水道ビジョン、予算・決算概要、業務状況報告書、水質検査計画、水質検査結果をホームページに公開しています。

● 水の保全・活用のために、市内約 40 か所の湧水量の調査を毎月行い、現況を把握しました。

施策１－３　生活排水処理施設の整備

● 浄化槽の整備については、広報紙やホームページなどで周知を図っており、その効果により、汚水処理人口普及率も年々上がっています。

● 平成 29 年 3 月に、し尿再生汚泥処理センター「前浜クリーン館」が完成し、同年 3 月 11 日より稼動しています。

基本指針２　地域内外との交流に必要な基盤をつくる

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　公共交通、道路整備では、継続的に要望を行っていきながら、公共交通手段の確保、市内道路整備、港湾の維持・改修を進めており、引き続き、市民とともに利便性、交流につながる交通網の形成に努めています。

◎　情報・通信では、防災行政無線、コミュニティ FM 放送をはじめ、様々な媒体が地域内外との交流だけでなく、生活の安全安心を図る基盤として定着しつつあります。

施策２－１　道路の整備

● 地域高規格道路「島原道路」や国道 57 号及び国道 251 号の改良整備、県道の改良整備にあたっては、整備に向けた要望を国や県に対して行いました。

● 市道については、道路の改良や舗装工事などを実施し、老朽化した橋りょうの点検及び補修を行ったほか、道路照明灯、区画線、道路反射鏡、ガードレール等の交通安全施設の設置・修繕を行いました。

● そのほか住民との意見交換の場として、障害者と一緒に道路を歩き、交差点や歩道の改善点を確認し、警察への働きかけや、道路整備時に障害者の意見を反映した整備を行いました。

施策２－２　公共交通の整備

● 行政、地域住民、交通事業者をメンバーとした島原市地域公共交通協議会を適宜開催し、市の実情にあった新たな公共交通システムの検討のため、平成 21 年～23 年及び平成 27 年に乗合タクシーやコミュニティバス等の実証運行を実施したほか、島原港の利便性向上にむけた協議を行いました。

● 島原鉄道への支援については、島原鉄道自治体連絡協議会を適宜開催し、鉄道の設備整備に関する支援や、路線バスを確保する為に補助金の支出を行いました。

● 港湾の維持・補修では、島原外港の適正な維持・管理のため、県営事業により改良工事等を行いました。

施策２－３　情報・通信の整備

● 地域イントラネットについては平成 30 年度現在市の出先機関 16 か所に接続し、整備は完了しています。また、多様な手段での情報発信も複数の SNS により実施中です。

● コミュニティ FM 放送を平成 19 年 11 月より開始し、放送内容の充実に努めたほか、平成 27 年度には新防災行政無線との接続を開始している。

● 「社会保障・税番号（マイナンバー）制度」への対応として、平成 28 年 1 月 1 日の制度導入実施に併せて、システム改修や研修会の実施、適切な情報提供等を実施しました。

基本指針３　豊かな自然と暮らしを守る

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　本市の自然環境の保全とともに、身近な環境美化や公害や不法投棄の防止等の環境問題への対応を図っています。

◎　森林環境の保全では、計画的な間伐、松くい虫の駆除を中心とした取り組みが進められています。

施策３－１　環境対策の推進

- 島原半島窒素負荷低減計画に基づき、窒素負荷低減対策の各対策を実施したほか、飲用井戸の水質検査を行い、基準を超過している井戸の利用者に上水道の利用への切替を勧奨しています。
- 環境保全意識向上、自然保護に向けた取り組みとして、市広報紙等による広報啓発のほか、産業まつり会場においてエコドライブの浸透、環境美化推進員によるイエローカード作戦等を実施しました。
- 公害や不法投棄の防止に向けた取り組みでは、発生原因者に発生状況に応じて指導を行うほか、不法投棄のパトロール、啓発看板の設置を行い、防止に努めました。

施策３－２　山林の保全

- 森林環境の保全に向けて、島原市森林整備計画に基づき、計画的な間伐等を行い、健全な森林の育成に努めました。
- 松林を松くい虫から保護するため、地上からの薬剤散布、樹幹注入による防除、被害木の伐倒駆除を行いました。

基本指針４　安全・安心と安らぎの環境を整える

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　公園・緑地、住環境といった生活環境では、計画的な整備・改修とともに、団体等よる維持・管理活動、ごみ減量・リサイクル活動を推進しています。

◎　いざというときの安全・安心の確保として、消防・防災、交通安全・防犯においては地域と連携した取り組みを推進するとともに、河川・海岸・砂防等、危険となる箇所の整備を行い、ソフト・ハードの両面から安全・安心の確保に取り組んでいます。

施策４－１　公園・緑地の整備・維持・管理

● 県営百花台公園の整備は、平成 29 年度で完了し、以降は、市内の公園と同様に市民が利用しやすい公園になるよう、公園の除草、剪定、遊具の点検等を行っています。

● そのほか、市内の公園では、看板による公園利用者へのマナーの周知や愛護団体等による維持・管理活動が行われています。

施策４－２　リサイクル環境の整備

● 「島原市ごみ収集日程表」により「資源ごみ」の分別について周知し、再資源化への意識高揚を図るほか、地域活動団体、福祉施設等が資源ごみの回収を実施した場合や、拠点回収を実施した場合に報奨金を支出し、ごみ減量・リサイクル活動を推進しました。

● 家庭から出る生ごみ等の減量化を図るため生ごみ処理機器の購入補助の啓発を行い、堆肥化推進を図っています。

施策４－３　住環境の整備

● 市営住宅については、平成 19 年度から平成 26 年度にかけて萩が丘住宅の建替えを実施しました。今後は、人口減少による住宅需要減少を考慮して、公共施設等総合管理計画に基づき公営住宅の統廃合により、維持管理経費の削減を図ることとしています。

● 高齢者向け優良賃貸住宅やサービス付き高齢者向け優良賃貸住宅により、高齢者向け住環境整備を促進しています。

● 民間宅地開発の適正な誘導に向けて、都市計画決定による用途地域等の変更を行い、住環境への整備促進を図りました。

施策４－４　消防・防災の推進

● 防災行政無線を平成 27 年 4 月より運用開始。屋外スピーカー、戸別受信機(文字戸別)のほか、防災ラジオ、防災メール、エリアメール、ホームページ、ケーブルテレビ、スマホアプリ「FM＋＋」へ配信し、文字と音声を活用し多角的な情報の配信を確立しました。

● 市民の防災意識の醸成と自主防災会の活性化に向けて、地域住民やサークル団体、福祉施設等に出向き、出前講座や自主防災会リーダー研修会を開催したほか、地域防災マップ作成、防災講話、初期消火訓練を実施しました。

● 消防施設、各分団の詰所、防火水槽、消火栓等は、建築年の古いもの及び程度の状況を勘案しながら順次整備したほか、消防署と連携し、消防団への救急救命の講習会を開

催しました。

施策４－５　交通安全・防犯の推進

● 市、島原警察署、市防犯協会、市交通安全協会と連携し、防犯・交通安全の啓発に取り組みました。

● 四明荘前の道路を、時間帯による歩行者専用道路とすることにより、交通事故防止につなげました。

● 市内の幼稚園・保育園で交通教室、小中学校を対象とした自転車教室を行うほか、高齢者に対しては、体験型の研修を通して交通安全対策を推進しました。

施策４－６　河川・海岸・砂防等の整備

● 白水川については、県で洪水・高潮を合わせた対策を実施しているほか、海岸保全対策では、県に対して事業に関する予算確保及び整備促進の要望を行いました。

● 土石流対策としての砂防堰堤の整備、溶岩ドーム崩壊対策として水無川１号・2 号砂防堰堤の嵩上げ工事のほか、水無川導流提内ウォーキング・ランニングコース（全長約2,760ｍ）の整備を行いました。

● 高潮対策では、船津地区の恒久的な高潮対策として、県や地元と密接な連携を図りながら、高潮堤防や大型排水ポンプ設置、緊急車輌が通れる道路の整備に取り組みました。

基本指針５　「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　農業・漁業・商工業では、人材育成や確保、販路の拡大を目的とした取り組みを中心に進めています。

◎　観光業については、観光資源を生かすべく、組織体制や観光メニューの充実を図りながら、農業・漁業・商工業との連携（融合）に向けて取り組みが進んでいます。

施策５－１　農林業の振興

- 機構集積協力金交付事業を活用し、農地集積・集約化を図るとともに、国・県の補助事業を活用し、農業用施設の整備や農業用機械の導入等を行い、経営の安定、畜産経営の基盤強化・規模拡大の支援を行いました。
- 緑肥用ヒマワリの作付けによる地力向上と景観形成や、市内畜産農家で生産された有機質堆肥の施用による土作りを支援し、環境保全型農業の推進に取り組んでいます。
- 体験型農業の推進に向けて、島原半島観光連盟が提供する体験メニューについて情報共有を行いました。
- 東京・大阪等での UI ターン向けの就農相談会や夏期、冬期就農相談会を実施し担い手確保に取り組みました。
- 多様な販路の開拓・確保に向けて、集出荷貯蔵施設の整備を行い、出荷量の増加や適期収穫による品質向上、契約出荷の拡大に取り組んでいます。また、食品製造販売業者との連携により、規格外品の付加価値の創出、有効活用に努めています。
- 多様な販路の開拓に向け、バイヤー商談会の開催、都市圏の有名レストランにおけるフェア並びに大手百貨店における物産展の開催や流通関係者の産地訪問によるマッチングを実施しています。

施策５－２　水産業の振興

- 水産資源の回復に向けて、関係自治体及び漁業協同組合等との連携による種苗放流や「水産多面的機能発揮対策事業」を活用した藻場、干潟の保全活動のほか、島原市中間育成施設を活用したヒラメやカサゴの中間育成放流にも取り組み、育てる漁業の普及に努めました。
- 新規漁業就業者が本格的に漁業を始めていくため、指導者のもとで漁業技術取得研修を行う間、生活費等の補助を行うことにより新規漁業就業者の就業定着を図りました。
- 漁協の広域合併の進捗はありませんが、広域（諫早市、雲仙市、島原市）での連携した浜の機能再編や中核的担い手の育成を推進する計画を策定中です。
- 漁業者と子どもたちがアマモ場の造成に取り組みました。また、「みんなでスクイを造ろう会」と連携して海岸清掃や魚のつかみ取りなどのイベントに参画しました。

施策５−３　商工業の振興

- 平成 24 年度から 26 年度に新商品開発支援事業補助金を実施し、新商品開発の支援を行いました。
- 平成 27 年度から島原市中小企業振興資金の融資利率を引き下げるとともに、利子補給補助金を実施し、市内事業者の利便性の向上を図りました。
- 中心市街地活性化基本計画の見直しについては未策定となっています。

施策５−４　観光業の振興

- 本市における観光 PR や誘致事業、施設の管理運営等を一体的に行い、サービスの向上・観光客の増加を図るため、観光組織の一元化し、平成 28 年 9 月に（株）島原観光ビューローが設立されました。
- 島原半島ジオパークの推進や長崎の教会群とキリスト教関連遺産の世界遺産登録、九州新幹線長崎ルートの開通を見据え、多様な観光資源の活用に向けて、島原半島 3 市及び熊本県との横軸連携を促進し、PR 活動をはじめとする交流人口の拡大を図る取り組みを推進しています。
- 新たな観光資源として、「九州オルレ」コース認定のため、コースの開発、申請を行ったほか、市内観光客の周遊性を高め、滞在時間を延長させるために、街歩きのイベントの開催や、かんざらしの手作り体験を実施しています。
- 民間企業と連携し、スポーツコンベンションや学会の誘致のほか、スポーツ合宿誘致のため、宿泊施設との連携を図り、トレーニング施設等の充実を図りました。
- 魅力的な観光施設の整備に向けて施設の修繕を随時行い、観光客に喜んでもらえる施設整備に努めるとともに、案内標識や観光看板等については、随時、修繕・更新を行っています。平成 29 年度に観光マップ看板の内容の見直しを行い、最新情報へ更新したほか、外国語の観光パンフレットの作製、多言語アプリの導入を行いました。

施策５−５　企業誘致及び新規起業・就業の支援

- 平成 24 年度より島原市企業立地促進雇用創出事業を実施し、製造業等の立地や規模拡大に対しての支援を行っています。
- 起業支援及び事業承継支援については、しまばら創業サポートセンターにおいて実施しました。
- 島原市中小企業大学校派遣事業費補助金により市内企業で働く従業員に対する人材育成に取り組むほか、島原市雇用拡大支援事業補助金により若者の地元就職の拡大に取り組む事業主に対して支援を行いました。
- しまばら創業サポートセンターにて創業相談を定期的に実施し、創業支援セミナーで創業前または創業後間もない事業者へノウハウを提供しました。

基本指針６　地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　市の特産品等を通じて島原市の認知度向上、販路開拓を進め、地域ブランドの確立を目指しています。

◎　交流活動として、市外では兄弟・姉妹都市をはじめとする友好都市との交流、移住・定住を図る取り組みを、市内では生涯学習活動等を通じて交流機会を創出しています。

施策６－１　地域ブランドの確立

- 島原市特産品認定制度で認定した商品をはじめ、高品質な農水産品の認知度向上を図るべく、定期的に都市圏の有名レストランにおけるフェア並びに大手百貨店における物産展を開催し、リピーター並びにファン作りに取り組んでいるほか、流通関係者を島原市に招き、産地訪問によるマッチングを実施しています。
- 平成 25 年度に島原市特産品認定制度（SQ）を発足したことを契機に、多くの事業者が呼応して活発な活動に繋がっています。
- 学校給食を通じた食育や循環型社会の形成に資するため、学校給食における地産・地消の拡大を図っています。
- 海外販路開拓支援事業により、大規模な国際見本市へ出展し、生産者・中小企業等の海外への販路開拓に向けたノウハウの獲得、成約に向けたフォローアップを実施しています。

施策６－２　交流活動の推進

- 市外との交流では、キャンプ誘致実行委員会と連携して、各種大会の誘致に取り組みました。市民も全国レベルの大会に触れることができ、特に子どもたちの競技に対する向上心につながっています。
- 平成 28 年度産業まつりにおいて、兄弟・姉妹都市をはじめとする友好都市（愛知県幸田町・静岡県小山町）との物産展を開催しました。また、同年 11 月に幸田町からの 100 名の訪問団の受入れを実施しました。また、豊後高田市の兄弟校との交流において、隔年で訪問・受入を実施し、交流を深めています。
- 市内での交流にあたっては、受講者の要望を考慮した魅力ある生涯学習講座の開催、公民館で活動するサークルの紹介等を通じて交流を図っています。
- 移住・定住の推進に向けて、ながさき移住サポートセンターと連携し、移住相談会を積極的に行うなど都心部からの移住を促進するとともに、空き家バンク制度を創設し、空き家情報を発信しています。

施策６－３　交流基盤の整備

- 交流基盤となる新しい広域交通ネットワークの検討として、平成 28 年 5 月に長崎県南地域の観光振興を主眼に置いた広域的な『長崎県南地域公共交通網形成計画』を長崎県、諫早市、雲仙市、南島原市、島原市で共同策定し、幹線の部分をまとめた計画を県南地域公共交通再編アクションプランとして位置づけました。

基本指針７　生きる力と創造力を持った人を育てる

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　市内の教育は、子どもの成長段階に応じて、保健福祉施策、家庭教育、学校教育との連携を図りながら取り組んでいます。また、学力の向上とともに、保育所と小学校、学校生活での困りごとなど、環境の変化にも切れ目のない支援を行っています。

◎　生涯学習では、青少年の健全育成、学校・家庭・地域社会の交流を図るべく、各種団体とともに取り組みを進めています。

◎　文化活動では、団体・サークルと連携しながら、市民の文化意識の醸成、郷土文化の保全に努めています。

施策７－１　就学前教育の充実

● 市保健センター内に「子育て支援室」を設置し、親育ち講座等を実施することにより、子育てに対する不安や負担の軽減、子育ての楽しさを感じることを目指し、併せて子育ての仲間づくりを支援しています。

● 保育所と小学校との情報共有のため、「保育要録」の送付について適宜指導するとともに、小学校教師と保育士等の意見交換や合同研修の機会を設け、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図っています。

施策７－２　義務教育の充実

● 教育力・学力の向上への取り組みとして、ALT を有効活用するための研修会を実施したほか、小中学校での学力調査結果をもとに、学力研修会を行っているほか、先進校視察を行いました。

● 小学校では、平成 32 年度から完全実施となる新学習指導要領に導入されるプログラミング教育に向け、調査研究、出前講座など研修を実施しているほか、授業における ICT の効果的な活用に向け、研修を重ねています。

● 各小中学校に学習支援員を配置することで、学習や生活において支援が必要な児童生徒に対して個に応じた指導に取り組んでいるほか、スクールカウンセラー、心の教室相談員による子どもたちの心に寄り添った指導を行いました。

● 中学校におけるキャリア教育をふまえた職場体験や宿泊学習を中心とした自然体験、福祉体験によるボランティア活動を行い、人間性を高める教育指導の充実に努めています。

● 各中学校の学区単位に小中連携計画を作成し、授業や職員の交流・情報交換を行いました。計画に従い、児童生徒の相互の学校行事への参加を行い、小中間の円滑な接続に努めました。

施策７－３　高等教育の充実

● 平成 29 年度から「ふるさとにもどってこんね奨学金」を創設し、貸付を行うことで、有為な人材の育成を図りました。これは島原市内に帰郷し就業することで、奨学金の償還を免除することにより、修学を容易にし、島原市内への定住促進を目的とするものです。

施策７－４　生涯学習の充実

● 各地区の青少年健全育成協議会が主体となり、子ども達に様々な体験活動の場を提供したほか、学校・家庭・地域社会が交流を図ることを目的に、PTA や青少年健全育成協議会などの各種団体が主体となって家庭教育学級を実施しました。

● 長期休業中や放課後における子どもの居場所づくり及び自学の習慣を身に付けさせることを目的に、スクールキッズ、放課後子ども学習室を実施しました。

● 公民館講座内容については、受講生の要望やアンケートの結果をもとに、内容の充実を図るとともに、各種広報媒体を活用した生涯学習講座の広報活動に努めました。

● 教育委員会、島原文化連盟の共催で、文化、健康、歴史、郷土、歴史等の分野にわたる講座を開催しました。

● 施設については、緊急に修繕を要する施設の計画的な改修に努めるとともに、島原図書館の利用者の利便性の向上について調査・検討を行いました。

施策７－５　文化活動の充実

● 市美術展、市民音楽祭、梅林俳句会など、文化団体・サークルと連携するとともに実施し、文化振興の観点から団体へ育成補助金を支出し、活動を支援しています。

● 歴史的まち並みの保存のために、伝統的建造物群保存地区の導入について、関係町内会住民に対し説明を行いました。登録有形文化財については、候補物件の調査を進め、国登録を進めてきました。

● 島原市の区域内に存するもののうち、重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、郷土文化の向上に資することを目的に文化財の指定を行いました。

施策７－６　スポーツの充実

● スポーツ少年団指導者協議会総会時に、総合型地域スポーツクラブについて、長崎県体育協会クラブアドバイザーによる講演を行ったことで、各スポーツ少年団の理解が深まり、設立に興味を示す団が増えつつあります。

● 平成町多目的広場や平成町人工芝グラウンド、陸上競技場の公認維持及びフィールド内の芝の維持管理を行い、大会誘致に結びつける整備を関係競技団体と連携して行いました。また、老朽化した設備について計画的な改修を行っています。

● 小・中学生を日本体育大学に派遣し、トップレベルの指導者や選手から講義や実技指導を受けることにより、児童生徒の意識の高揚を図るとともに、指導者を対象に日本体育大学から講師を招き、講習会を通じて指導者の資質向上を図りました。

基本指針８　健康で生きがいある生活を支える

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　市民の健康増進を図りながら、だれもが住み慣れた地域で安心した生活を続けられるよう、各種保健福祉施策においては、予防を重視した各種取り組みを展開するとともに、多様な主体とともに切れ目のない支援の構築に向けて取り組んでいます。

◎　低所得者福祉においては、自立を促すための支援を進めています。

◎　消費者教育・支援では、被害の未然防止を目的とした啓発活動とともに、被害にあわれた場合の相談支援の両面から取り組みを進めています。

施策８－１　保健・医療の更なる充実

● 島原市国民健康被保険者の特定健康診査では、平日、休日夜間の健診日の設定や各地区の公民館等で実施するなど、多様な健診受診の機会を設けたほか、未受診者への戸別訪問や受診勧奨の案内通知を行い、受診率の向上を図っていますが、目標値には達していない状況です。

● 妊娠期から高齢期まで各ライフステージに応じて健康に関する知識の普及啓発や健康づくりの支援を市の広報誌やホームページ、各種健診や健康相談、健康づくりの教室、介護予防サークル活動等を通じて行い、市民の健康づくりの機会の拡大に努めました。

● 小児診療体制の確保については、平成 26 年 4 月、長崎県島原病院に「島原地域小児医療研究室」を開設し、2 名の小児科医を常時配置して平日の診療を行っているほか、休日（土曜日の 18 時～日曜日の 17 時）においても小児の休日診療事業により対応しています。小児以外についても、在宅当番医制や病院群輪番制運営支援事業の実施等により休日・夜間等の医療体制の充実を図っています。

● 平成 26 年度に在宅医療・介護連携検討委員会を立ち上げ、医療、介護、福祉の各関係機関と行政機関において、在宅医療・在宅介護等に関して多職種間の連携を円滑に推進するための体制づくりを行っています。

● 看護学校において、入学者のうち卒業後に島原市内の医療機関に就業を希望する者の中から 5 名程度を選考し、毎月 5 万円（年額 60 万円、3 年間で 180 万円）を貸与することで、将来の看護師の確保に努めています。

施策８－２　国民健康保険・国民年金制度の充実

● 医療費や国保税に関する各種お知らせ等を実施し、医療費の適正化や保険税の収納対策に努めるとともに、持続可能な国保事業の財政安定を図るため、県が財政運営の責任主体とする新制度への移行を実施しました。

● 患者の QOL 低下と医療費高騰を招く人工透析の新規導入を防止するため、医師会と連携し糖尿病性腎症重症化予防事業を開始、また、歯科医師会と連携して歯科健診事業を推進するなど健康への自覚と疾病の早期発見治療を促しました。

● 生活習慣病予備群である対象者に対し、一人ひとりの生活習慣病のリスクに応じた特定保健指導を行っているほか、生活習慣病の因子ごとにテーマを設けた生活習慣病改善教室を実施しています。

施策８－３　高齢者福祉の充実

● 高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を続けられるよう、生活支援コーディネーター等の配置による、地域生活支援体制の強化をはじめ、緊急通報システムの周知を図り、設置希望者や対象の掘り起こしに努めています。当該システムについては、平成 29 年度から新たに人感センサーを併設し、一層の安心・安全確保の向上を図りました。

● 生きがいや役割をもって生活できる地域の実現を目指すことを目的とし、65 歳以上の市民を対象に、健康教育・健康相談等を実施し、介護予防の知識の普及・啓発及び健康の保持・増進を図っています。

● 島原市ねたきり老人等介護見舞金支給事業により、在宅で高齢者等を介護されている家族へ見舞金の支給を行い、また、島原市ねたきり高齢者等おむつ費助成により、経済的不安の軽減を図りました。

● 島原市社会福祉協議会や市内の老人クラブが行う各種の社会活動や、一人暮らし高齢者の支援、世代間交流事業を支援するほか、競技人口の多いペタンクやグラウンド・ゴルフについて、島原市長杯の大会を開催し、スポーツ大会の参加者の拡大を図りました。

施策８－４　子育て支援の充実

● 保育サービスの充実を図るために、各種保育事業に取り組む保育所や認定こども園に補助金を交付し、保育サービスの充実を図っているほか、島原市白山保育園を民間に移譲し、民間活力の導入によるサービスの充実に取り組んでいます。

● 子育て家庭への支援にあたっては、小学生以下 2 人目以降の児童を対象とした保育料軽減制度や、中学生までの医療費助成、乳幼児の育児用品代の助成など、経済的負担の軽減策を推進しています。特に子育て住まい支援事業及び 3 世代ファミリー応援事業は、申請者数も年々増加している状況です。

● 生活の中で直面する諸問題や児童の精神的不安定を解消するため、母子家庭及び父子家庭並びに寡婦の地域での生活を総合的に支援しながら、生活の向上を図っています。

● 親支援（親育ち）と子育ての仲間づくりを支援するための講座などの充実を図るとともに、乳児家庭全戸訪問事業の充実や子育て関連情報をホームページやスマートフォンによる情報提供などにより、在宅で子育てをしている家庭への支援を行っています。

施策８－５　障害者福祉の充実

● 障害者の自立に向けた就労のための実習の場と、事業者への理解促進を目的に、「島原市障害者職場実習促進事業」を開始しました。

● 障害者総合支援法に基づく在宅の福祉サービスを提供し、障害者の福祉の充実を図りました。

● 障害者の社会参加を促し、地域で共に生活する「共生社会」の実現に向け、市民等に正しい理解と知識の普及に努めています。

施策８－６　低所得者福祉の充実

● 生活困窮者等の相談から、それらの課題を分析しニーズに応じた支援計画を作成しています。

● 生活困窮者等への支援が包括的に行われるよう関係機関との連絡調整を行い、訪問による生活実態を把握し、就労による自立促進など、生活保護に陥る前に対応することで早期に生活困窮からの脱却を目指しています。

施策８－７　消費者教育・支援の充実

● 平成 22 年 4 月に消費生活センターを設置し、市民の相談に対応しています。

● 市の関係部署や警察署、老人クラブ連合会、母子寡婦福祉会、婦人会連絡協議会、地域支援包括センター等で島原市消費者被害防止ネットワークを組織し、情報の配信や高齢者が集まる会合へ出向き、啓発活動を行いました。

施策８－８　社会福祉の充実

● 地域で助け合う互助・共助の体制構築に向けて、平成 28 年度から「島原市あんしん支え合い活動」を開始し、日常的に見守りなどの支援を必要とする方の情報（名簿）を市と地域の支援者で共有し、地域における見守り体制の充実を図っています。

● 市のホームページや広報紙、FM しまばらやケーブルテレビなど各種広報媒体を活用して、福祉サービス等の周知を行っています。

基本指針９　自立した地域コミュニティづくりを支援する

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　地域コミュニティづくりにあたっては、新たなコミュニティ組織づくりに向けた取り組みとともに、自治会加入促進、拠点となる施設の計画的な改修等を進めています。

施策９－１　コミュニティ活動の活性化

- 新たなコミュニティ組織づくりに向けた取り組みとして、平成 27、28 年度は各種団体などを対象とした周知・説明を行ったほか、先進地の職員等を招聘しての勉強会や各種団体による先進地視察を実施した。
- 町内会・自治会の加入の必要性を伝えるため、5 月を町内会・自治会加入促進月間として位置づけ、町内会自治会連合会と共同で加入促進活動を実施しました。
- 自治公民館建設補助事業により、自治公民館の新設・増改築・改修に対する補助を行ってきました。

施策９－２　人権教育と男女共同参画の推進

- 各地区公民館において、女性学級、高齢者学級の中で人権教育に関する講座を開催しました。
- 男女共同参画を推進するため、講演会やイベント、研修会等を開催し、また、関係する情報を広報紙等に掲載し周知・啓発に努めました。

基本指針 10　市民に開かれた行政を運営する

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　市民に開かれた行政運営に向けては、制度に基づく情報公開、パブリックコメントだけでなく、様々な媒体を活用し、市民や関係者とともに市の情報発信していく取り組みを進めています。

- 情報公開請求に対して条例に則り適正な情報公開を推進しました。また、行政改革大綱などの重要な計画や市の財政状況など市政運営の基本となる情報については、市ホームページや広報誌を利用して、定期的な公表を行いました。
- ウェブサイト、ケーブルテレビ、コミュニティ FM での情報発信を継続して実施するとともに、Facebook、Twitter、Instagram、LINE(予定)などの情報発信を実施しています。また、市民にも情報発信の一翼を担っていただく「情報マイスター制度」にも取り組んでいます。
- 多様化する市民のニーズを市政に反映させるため、各部署で募集要件を設定し、公募委員の募集に努めるほか、島原市パブリックコメント手続要綱を策定し、市民が市政に参画する機会の拡充を図りました。

基本指針 11　持続的発展を目指した健全な財政を運営する

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　島原市行政改革大綱に基づく行財政運営の効率化を進めるとともに、職員の資質の向上、組織体制の見直しに取り組んでいます。

- 島原市行政改革大綱に基づき、指定管理者制度を 22 施設に導入し、民間ノウハウの導入及び施設運営の効率化を行ったほか、平成 18 年 4 月 1 日現在の職員数 432 人を基準とし、平成 28 年度までの 10 年間で 10%以上削減しました。
- 平成 25 年度にウエブシステムを利用した提案募集を実施（過去最高の 83 件の提案）し、事前審査として全職員による採点を行うなど、職員の政策提案能力の向上に努めています。
- 地方創生推進のための島原ふるさと創生本部や、企業誘致推進のための企業立地推進室を設置するなど、随時見直しを行っています。

基本指針 12　広域的な地域づくりを促進する

（計画期間における主な取り組み概要）

◎　広域行政では、観光資源や人口減少対策を中心に取り組みを進め、周辺自治体との連携を行っています。

- 観光資源の開発や広域的な観光連携と観光ルートの設定に、島原半島 3 市及び熊本県との横軸連携を促進して取り組むほか、人口減少対策として、地域の実情に応じて各種施策を行っています。
- 定住自立圏については、具体的な検討には至っていないものの、周辺自治体との協力については、必要性に応じて随時行っています。

第７次島原市市勢振興計画策定に向けた

職員ワークショップ
まちづくり座談会

実施要項

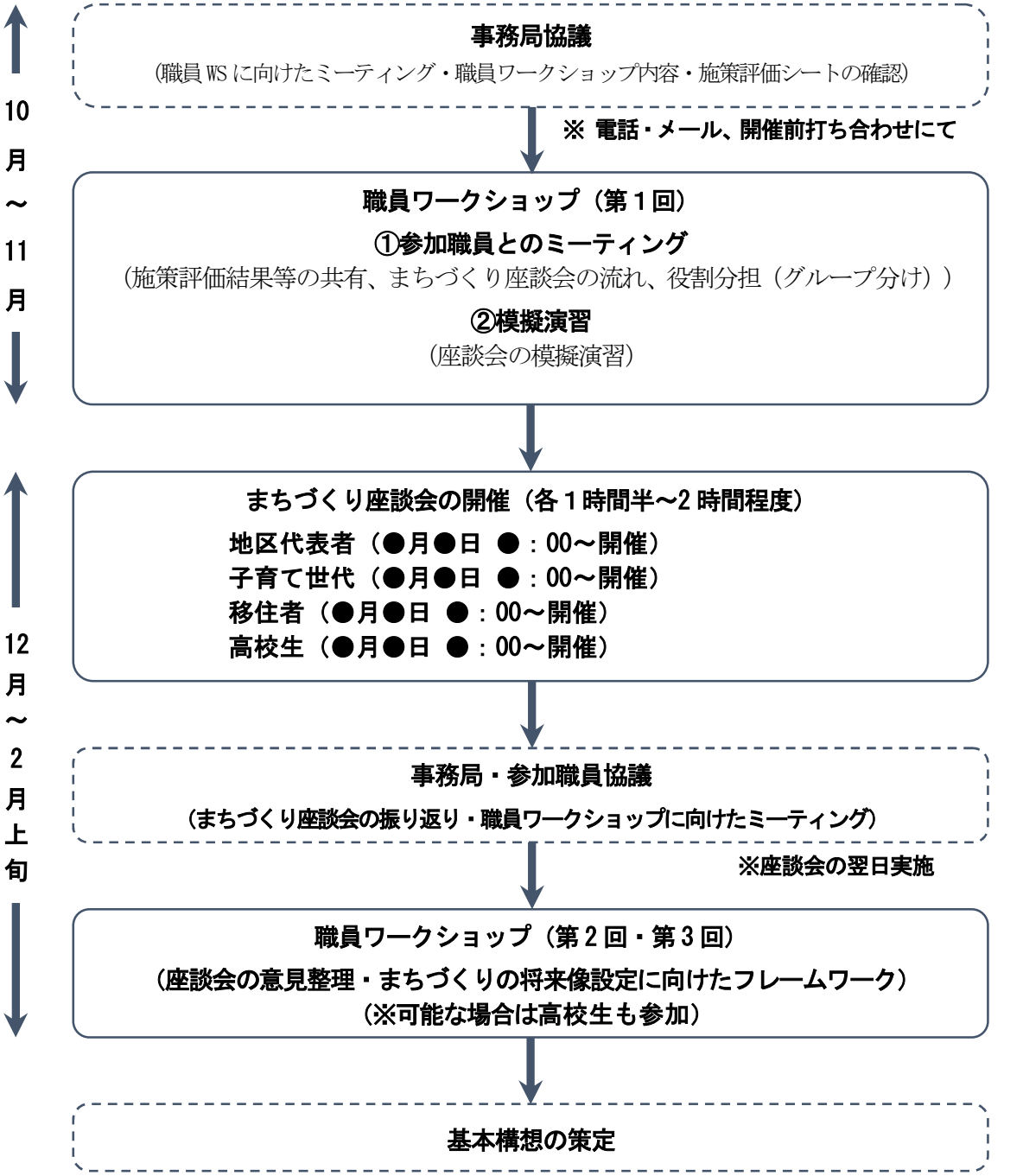
平成３０年１１月

目　　次

１　職員ワークショップ・まちづくり座談会について 1
◎　職員ワークショップ・まちづくり座談会の流れ 1
２　事前準備 2
◎　職員ワークショップメンバーの選定・依頼（10 月） 2
◎　まちづくり座談会への参加依頼（10 月～11 月） 2
◎　資料作成（10 月～11 月 2 回目以降適宜） 2
◎　開催日時、当日進行の確認（10 月～11 月） 2
３　職員ワークショップの進め方 3
◎　ワークショップの実施にあたって（実施概要） 3
◎　職員ワークショップの進行（案） 3
４　まちづくり座談会の進め方 5
◎　まちづくり座談会の実施にあたって（実施概要） 5

1　職員ワークショップ・まちづくり座談会について

◎　職員ワークショップ・まちづくり座談会の流れ



※実施時期については、適宜調整

２　事前準備

◎　職員ワークショップメンバーの選定・依頼（10 月）

職員ワークショップ及びまちづくり座談会に参加する職員は、若手職員を中心に、担当課等からの推薦により決定します。

◎　まちづくり座談会への参加依頼（10 月～11 月）

まちづくり座談会への参加者については、地区代表者、事務局及び団体からの推薦により決定し、参加を依頼します。

（案：要検討）

地区代表者：自治組織代表者　等　（10～20 名程度）

子育て世代：子育てサークル、保育事業者、子育て家庭　等（5～10 名程度）

移　住　者：市内への移住者、地域おこし協力隊　等（5～10 名程度）

高　校　生：市内高等学校の生徒　等（10～20 名程度）

◎　資料作成（10 月～11 月 2 回目以降適宜）

職員ワークショップの基礎資料として、現市勢振興計画の施策評価及びアンケート調査結果概要を作成します。

◎　開催日時、当日進行の確認（10 月～11 月）

職員ワークショップ及び各まちづくり座談会の開催日時及び当日の進行手順を作成し、確認します。

３　職員ワークショップの進め方

◎　ワークショップの実施にあたって（実施概要）

ワークショップの実施概要は、次のとおりです。

■　ワークショップの目的

● 職員ワークショップは、職員参画による計画策定のワーキンググループとして、まちづくりの現況や課題等について共有し、まちの良さや改善点について考え、職員としての必要な取り組みを考えるきっかけとします。

● まちづくり座談会の開催に向けたインタビューテーマの設定、模擬演習を行い、新たな市勢振興計画への市民の意向や意見の整理、将来像（案）の設定を目的とします。

■　参加者

（構　成）

□ 全　　体・・・２２人

□ グループ別・・施策分野に関わらず、４つのグループで構成し、各グループが「地区代表者」「子育て世代」、「移住者」、「高校生」のうち１つの座談会を担当します。

◎　職員ワークショップの進行（案）

■　第１回進行（案）（時間：2 時間～2 時間 30 分）

□ **説明**

職員ワークショップの目的、グループ分けの説明

市政振興計画の概要と現況（施策評価結果概要等）の説明

□ **意見交換①**

問「島原市の良いところ、これから必要な取り組み（課題）を考えてみよう」

□ **意見交換②**

問「まちづくり座談会で聞きたいインタビューテーマを考えてみよう」

□ **各グループ間の意見発表・模擬演習**

まちづくり座談会の進行説明

インタビューテーマをもとに、職員間で模擬座談会を開催

■　第２回・第３回進行（案）（時間：2 時間～2 時間 30 分）

□ 説明

各座談会での意見、職員ワークショップでの意見の整理（資料説明）

アンケート調査結果の説明

第２回（第３回）ワークショップでの作業説明

□ ワーキング

問「島原市のめざすまちづくり（将来像）を考えよう」（フレームワーク）

□ 各グループの意見発表

■（参考）フレームワークのイメージ

第●グループ

第２回・第３回
職員ワークショップに
おいて
将来像（案）を
設定

市勢振興計画の将来像

（将来像に込めた想い、キーワード、考え方等）

プラス面：ありたい姿

第２回
職員ワークショップ
において
まちづくり座談会の
意見を加え
将来の
「ありたい姿」
「避けたい姿」を
整理

島原市のプラス面（良いところ）	まちづくり座談会での意見	島原市のマイナス面（課題となるところ）
第１回 **職員ワークショップ** **での意見を整理**	**まちづくり座談会** **での意見** **（キーワード）を** **整理**	**第１回** **職員ワークショップ** **での意見を整理**

マイナス面：避けたい姿

将来像（案）を
実現するために
必要な取り組みを
記入

新しいまちづくりに必要な取り組み

4　まちづくり座談会の進め方

◎　まちづくり座談会の実施にあたって（実施概要）

まちづくり座談会の実施概要は、次のとおりです。

■　まちづくり座談会の目的

- テーマごとに市民の求めるまちづくりへの意向を把握します。
- 参加者同士のコミュニケーションを深め、協働によるまちづくりを考えるきっかけとするほか、今後のまちづくりに必要な取り組みを把握し、新たな施策構築の基礎とします。

■　参加者（構成）

（構　成）

- □ **地区代表者**：自治組織代表者　等
- □ **子育て世代**：子育てサークル、保育事業者、子育て家庭　等
- □ **移　住　者**：市内への移住者、地域おこし協力隊　等
- □ **高　校　生**：市内高等学校の生徒　等

■　当日の流れ（案）（各１時間半～2 時間程度）

□ （事前打ち合わせ）

当日の進行確認

□ **オリエンテーション**

開会あいさつ

新たな市政振興計画について（資料説明）

□ **※アイスブレイク**

参加者の自己紹介（市民・職員）

□ **インタビュー**

設定したインタビューテーマに基づいてインタビューの実施

・インタビュー内容の説明：（株）ぎょうせい

・各テーブル（グループ）での進行・記録：参加職員

□ **終わりのあいさつ**

※アイスブレイク

初対面の人同士が出会う時、その緊張をときほぐすための手法。集まった人同士のコミュニケーションをとりやすい雰囲気を作り、そこに集まった目的の達成に積極的に関わってもらえるよう働きかけるための機会として用います。